

H24-D1-2 17.66~21.50m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	記事	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更していないものは「」で表示)		記事内容	記事内容		
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度		
			コア観察カードから正しく転記されているか?						
			☑						
50	17.66	19.78	割れ目は少なく、30~60°の割れ目が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土脈をはさむものがある。	17.66	19.78	割れ目は少なく、30~60°の割れ目が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土脈をはさむものがある。	17.66	19.78	17.66~19.78m: 上位に比べて割れ目が少なくなり、傾斜30~60°の割れ目を主体とする。割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土脈をはさむものがある。
51	-	-	-	18.10	18.10	傾斜40°の割れ目に幅1~2mmのマンガンを含む。	18.10	18.10	18.10m: 傾斜40°の割れ目に幅1~2mmのマンガンを含む。
52	18.21	18.21	58°割れ目は、割れ目沿いに幅1~2mm風化で褐色化し砂状化する。割れ目周辺に微細な白雲母が晶出している。	18.21	18.21	58°割れ目は、割れ目沿いに幅1~2mm風化で褐色化し砂状化する。割れ目周辺に微細な白雲母が晶出している。	18.21	18.21	18.21m: 傾斜58°の割れ目沿いに幅1~2mmが風化で褐色化し砂状化する。割れ目周辺に微細な白雲母が晶出する。
53	-	-	-	18.41	18.41	傾斜50°、幅1mmの白色粘土を含む。	18.41	18.41	18.41m: 傾斜50°で幅1mmの白色粘土を含む。
54	18.77	18.77	55°はせん断性割れ目で、幅2mmの軟弱な灰黄色粘土脈をはさむ。	18.77	18.77	55°のせん断性割れ目は、幅2mmの連続性に乏しい軟質な灰黄色粘土脈を含む。55°割れ目と止まっている割れ目と隣接する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	18.77	18.77	18.77m: 傾斜55°の割れ目は幅2mmの連続性に乏しい軟質な灰黄色粘土脈を含む。この割れ目と止まっている割れ目と隣接する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
55	18.97	18.97	58°割れ目沿いマンガン鉱染で黒褐色化する。	18.97	18.97	58°割れ目沿いマンガン鉱染で黒褐色化する。	18.97	18.97	18.97m: 傾斜58°の割れ目沿いがマンガン鉱染で黒褐色化する。
56	-	-	-	19.01	19.21	風化残留部でやや硬質。	19.01	19.21	19.01~19.21m: 風化残留部でやや硬質である。
57	19.01	19.21	(コアの硬さ欄) Oランク	19.01	19.21	(コアの硬さ欄) Oランク	19.01	19.21	(コアの硬さ欄) Oランク
58	19.30	19.30	62°割れ目沿いに幅5~15mmは砂状化~細片状化する。若干の粘土も含む。	19.23	19.30	19.23m及び19.30mの62°割れ目沿いに幅2~15mmは砂状化~細片状化する。若干の粘土も含む。この間、マンガン汚染により褐色化している。	19.23	19.30	19.23m及び19.30mの傾斜62°の割れ目沿いは幅2~15mmで砂状~細片状化する。若干の粘土も含む。この間、マンガン汚染により褐色化している。
59	19.57	19.78	(コアの形状欄) Vランク	19.57	19.78	(コアの形状欄) Vランク	19.57	19.78	(コアの形状欄) Vランク
60	-	-	-	19.57	19.61	傾斜50°、幅2.5mm程度で軟質化。下端側は幅10mmでマンガン汚染が顕著。	19.57	19.61	19.57~19.61m: 傾斜50°、幅2.5mm程度で軟質化する。下端側は幅10mmでマンガン汚染が顕著に見られる。
61	19.78	19.87	破砕帯H(主せん断面・19.87m) 上端53°、下端63°で両者とも直線的でシャープに連続する。φ1~3mmの石英粒とφ5mm前後の粘土化したCa岩片を含む。厚さは10~50mmと場所により膨張する。	19.78	19.87	破砕帯H(最新活動面・19.82m) 上端53°、下端63°で両者とも直線的でシャープに連続する。φ1~3mmの石英粒とφ5mm前後の粘土化したCa岩片を含む。厚さは10~50mmと場所により膨張する。19.82mには幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟み込む。含まれる細粒部は割れ目に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	19.78	19.87	●19.78~19.87m: 破砕帯粘土混じり破砕帯(H) 上端53°、下端63°でともに直線的でシャープに連続する。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化したCa岩片を含む。厚さ10~50mmと膨張する。19.82mに幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟み込む。
62	19.78	19.87	(割れ目状態欄) Eランク (コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Eランク (変質欄) 4ランク (破砕度区分欄) H	19.78	19.87	(割れ目状態欄) Eランク (コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Eランク (変質欄) 4ランク (破砕度区分欄) H	19.78	19.87	(割れ目状態欄) Eランク (コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Eランク (変質欄) 4ランク (破砕度区分欄) H
63	19.87	19.96	(コアの形状欄) Vランク	19.87	19.96	(コアの形状欄) Vランク	19.87	19.96	(コアの形状欄) Vランク
64	19.87	20.56	60°割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1~2mmの軟質白色粘土脈を含む。	19.87	20.59	60°割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1~2mmの軟質白色粘土脈を含む。	19.87	20.59	19.87~20.59m: 傾斜60°の割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1~2mmの軟質白色粘土脈を含む。
65	20.56	21.50	直上位と同様、60°割れ目からなるが、直上位よりも硬質で、硬さ「C」となる。	20.59	21.50	直上位と同様、60°の割れ目が分布するが、直上位よりもやや硬質で、硬さ「C」となる。	20.59	21.50	20.59~21.50m: 直上位と同様、傾斜60°の割れ目が分布するが、直上位よりもやや硬質である。

H24-D1-2 20.59~22.32m

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
66	20.56	21.50	(岩級区分欄)CM	20.59	21.50	(岩級区分欄)DL	コアの形状のランクの変更に伴い、岩級を変更した。 20.59~21.01mはCM級であるが、上記の変更で、区間長が50cm未満になるためDL級に含めた。	20.59	21.50	(岩級区分欄)DLに含める	
67	20.56	20.56	(コアの硬さ欄)D/Cランク境界 (コアの形状欄)IV/IIIランク境界 (風化欄)δ/γランク境界	20.59	20.59	(コアの硬さ欄)D/Cランク境界 (コアの形状欄)IV/IIIランク境界 (風化欄)δ/γランク境界	コアに合わせて各ランクの境界を変更した。	20.59	20.59	(コアの硬さ欄)D/Cランク境界 (コアの形状欄)IV/IIIランク境界 (風化欄)δ/γランク境界	
68	20.74	20.77	30° 幅30mmで斑晶のない微晶質部が分布。上下端はよく密着している。このすぐ上端側にはφ10mmの大型のかり長石の斑晶が分布する。	20.74	20.77	30° 幅30mmで斑晶のない微晶質部が分布。上下端はよく密着している。このすぐ上端側にはφ10mmの大型のかり長石の斑晶が分布する。	上端側が必ずしも上蓋とは限らないため上端に変更した。 大型の長石はかり長石であるため変更した。 隣記の修正(の)	20.74	20.77	20.74~20.77m:傾斜30°で幅30mmの斑晶のない微晶質部が分布し、上下端は密着する。上端側には径10mmの大型のかり長石の斑晶が分布する。	
69	20.90	20.90	65° 割れ目沿いに微細な白雲母が晶出している。粘土脈は伴わない。	20.90	20.90	65° 割れ目沿いに微細な白雲母が晶出している。粘土脈は伴わない。周囲はわずかに緑色化している。	・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母) ・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。 ・表視の適正化(沿い、伴う)	20.90	20.90	20.90m:傾斜65°の割れ目沿いに微細な白雲母が晶出する。粘土脈は伴わない。周囲はわずかに緑色化する。	
70	21.01	21.36	(コアの形状欄)IIIランク	21.01	21.36	(コアの形状欄)IVランク	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した。	21.01	21.36	(コアの形状欄)IVランク	
71	21.05	21.30	80~90°の低密着割れ目2~3本が分布し、割れ目沿いにマンガン鉱染を受ける。	21.05	21.30	80~90°の低密着割れ目2~3本が分布し、割れ目沿いにマンガン鉱染を受ける。	・表視の適正化(沿い、受ける)	21.05	21.30	21.05~21.30m:傾斜80~90°のマンガン鉱染を伴う低密着割れ目が2~3本分布する。	
72	-	-	-	21.12	-	21.12m以深は斑晶が少ないアプライト様を呈する。	・21.12m以深の地質について追記した。	21.12	-	21.12m以深は斑晶が少ないアプライト様を呈する。	
73	21.50	23.18	上段よりやや割れ目多くなるが(コア形状IV)、硬さC)と硬質。割れ目は特定方向のものは分布しないが、一部で割れ目沿いに軟質化するものもある。	21.50	23.18	上段よりやや割れ目多くなるが(コア形状IV)、硬さC)と硬質。割れ目は特定方向のものは分布しないが、一部で割れ目沿いに軟質化するものもある。マンガン鉱染を伴う割れ目が多い。	・コアに合わせて硬さを変更した。 ・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した。 ・表視の適正化(上記⇒上位、やや、沿い、軟質化)	21.50	23.18	21.50~23.18m:上段より割れ目やや多くなるが、やや硬質である。割れ目は特定方向のものは分布しないが、一部は割れ目沿いに軟質化する。マンガン鉱染を伴う割れ目が多い。	記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない
74	21.50	21.50	50° 割れ目に幅2~3mm軟弱粘土脈は含む。	21.50	21.50	50° 割れ目に幅2~3mm軟弱黄褐色粘土脈を挟む。	・粘土の色調を追記した。 ・表視の適正化(挟む、軟弱⇒軟質)	21.50	21.55	21.50~21.55m:局所的に粘土化し、灰黄色粘土が網目状に分布する。一部でマンガンを伴う。上端60°、下端20°で花崗斑岩との境界は明確である。	下記にある同じ深度の記載をまとめて書きした
75	21.89	22.10	21.89m・15° ~22.10m・50° で囲まれた部分は粘土化し、劣化している。	21.89	22.10	21.89m・15° ~22.10m・50° の割れ目で囲まれた部分は粘土化し、劣化している。	・割れ目であることを追記した	21.89	22.10	21.89m・15° ~22.10m・50° の割れ目で囲まれた部分は粘土化し、劣化する。	
76	-	-	-	21.50	21.55	21.50~21.55m間は局所的に粘土化し、灰黄色粘土が網目状に分布する。一部でマンガンを伴う。	・網目状の粘土化やマンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した	-	-	-	上記でまとめて書きしたため記載しない
77	-	-	-	22.10	22.39	アプライトを挟む。上端90°、下端20°で花崗斑岩との境界は明確。	・アプライトの存在について追記した	22.10	22.39	22.10~22.39m:アプライトを挟む。上端60°、下端20°で花崗斑岩との境界は明確である。	
78	22.17	22.17	60° 割れ目に幅1~2mmの灰黄色軟弱粘土脈は含む。	22.17	22.17	60° 割れ目に幅1~2mmの灰黄色軟質粘土脈を挟む。	・表視の適正化(挟む、軟弱⇒軟質)	22.17	22.17	22.17m:傾斜60°で幅1~2mmの軟質な灰黄色粘土を挟む。	
79	22.10	22.20	(コアの形状欄)IVランク	22.10	22.20	(コアの形状欄)Vランク	・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	22.10	22.20	(コアの形状欄)Vランク	
80	22.10	22.39	(地質名欄)Go	22.10	22.39	(地質名欄)Ao	・コアに合わせて地質名欄を変更した	22.10	22.39	(地質名欄)アプライト	
81	22.20	22.65	(割れ目状態欄)αランク	22.20	22.65	(割れ目状態欄)βランク	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをβランクに変更した	22.20	22.65	(割れ目状態欄)βランク	
82	22.21	22.21	50°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている(実質量25mmをズレ)	22.21	22.21	50°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を止めている。切っ先は(実質量25mmをズレ)割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の地層には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・実位の基準とした割れ目は割になるものではないため実質量を削減した。 ・割れ目及び周辺状況について追記した。 ・追記した理由や上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性、切っ先」を削除した	22.21	22.89	22.21m・50°及び22.89m・95°の割れ目は、交差する割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の地層が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	記事内容が同じであるため、22.89mの記事を含めて記載した
83	22.32	22.32	40°幅20mmの長石濃集部が母岩に密着して分布。	22.32	22.32	20°幅20mmのかり長石濃集部が母岩に密着して分布。	・コアに合わせて傾斜を変更した。 ・かり長石であるため追記した	22.32	22.32	22.32m:傾斜20°で幅20mmのかり長石濃集部が母岩に密着して分布する。	

H24-D1-2 22.90~27.32m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	記事	記事	記事		記事	記事	
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
84	22.89	22.89	85°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている(変位量15mm左スレ)	85°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を止めている。切っこんでいる(変位量10mm左スレ) 割れ目には鉄骨が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	変位の基準とした割れ目は対になるものではないため変位量を削除した。 割れ目及び周辺状況について追記した。 追記した理由や上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性、切っこんでいる」を削除した。	-	-	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
85	22.90	23.00	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Cランク	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	コアはやや軟質で周囲より割れ目が多いため、コアの硬さ、コアの形状の各ランクを変更した。	22.90	23.00	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク
86	23.18	24.04	割れ目の少なくや硬質、40~60°割れ目主体で、割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色~灰黄色粘土脈を挟む。	割れ目が少なくや硬質、40~60°割れ目主体で、割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色~灰黄色粘土脈を挟む。	傾斜の修正(ゆがみ) コアに合わせて硬質を変更した。 表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質)	23.18	24.04	23.18~24.04m: やや硬質で、傾斜40~60°の割れ目が主体であるが、割れ目は少ない。一部に幅1~2mmの軟質な白~灰黄色粘土脈を挟む。
87	23.68	23.72	23.68m、23.72m、50°で各々、幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布。	-	-	23.68	23.72	23.68m及び23.72m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。
88	23.80	24.04	(コアの形状欄)Vランク (岩級区分欄)CM	(コアの形状欄)Vランク (岩級区分欄)DL	周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した。 上記の変更に伴い、岩級を変更した。	23.80	24.04	(コアの形状欄)Vランク (岩級区分欄)DL
89	23.88	23.88	73°、幅4~5mmの長石脈が母岩に密着して分布。	73°、幅4~5mmの長石と石英の濃集部が顕状に分布、中着している。	顕状の基物について種類を追記した。 風物脈は母岩と中着していることを追記した。	23.88	23.88	23.88m: 傾斜73°で幅4~5mmの長石と石英の濃集部が顕状に中着して分布する。
90	24.04	25.22	上位よりやや軟質化し、傾斜Dで、20~60°割れ目が主体。軟化するため、割れ目の一部は細片化する。	上位よりやや軟質化し、傾斜Dで、20~60°割れ目が主体。軟化するため、割れ目の一部は細片化する。 割れ目に白色粘土やマンガンを含むことが多い。	表現の適正化(やや、軟質化) 白色粘土やマンガンの存在は周囲と異なる状況であるため追記した。	24.04	25.22	24.04~25.22m: 上位よりやや軟質化し、割れ目の一部は細片化する。傾斜20~60°の割れ目が主体である。割れ目に白色粘土やマンガンを含むことが多い。
91	24.04	24.30	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)Vランク	周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した。	24.04	24.30	(コアの形状欄)Vランク
92	-	-	-	傾斜35°の割れ目に沿って幅5~10mmが緑色化している。	緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。	24.04	24.04	24.04m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅5~10mmが緑色化する。
93	-	-	-	傾斜60°の割れ目に沿ってマンガン汚染が顕著に見られる。	顕著なマンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した。	24.57	24.60	24.57~24.60m: 傾斜60°の割れ目沿いにマンガン汚染が顕著に見られる。
94	24.80	24.82	60°、幅15mmは粘土化でやや軟質。	60°、幅15mmは白色粘土化でやや軟質化。 下端側は緑色化が見られる。	粘土化の色調を追記した。 緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。 表現の適正化(やや、軟質化)	24.80	24.82	24.80~24.82m: 傾斜60°で幅15mmが白色粘土化し、やや軟質化する。下端側は緑色化が見られる。
95	24.80	25.22	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)Vランク	周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した。	24.80	25.22	(コアの形状欄)Vランク
96	25.22	26.84	一部の割れ目では、割れ目自体に薄く軟化するが、硬質で割れ目は少ない。 一部の割れ目には、幅0.5~1mmの白色・軟弱粘土脈を挟むが粘土脈の分布は少ない。	一部の割れ目では、割れ目沿いに薄く軟質化するが、硬質で割れ目は少ない。 一部の割れ目には、幅0.5~1mmの白色・軟弱粘土脈を挟むが粘土脈の分布は少ない。	コアに合わせて硬質を変更した。 表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質) 文意の適正化(一部の割れ目と粘土脈の分布が少ないは同じ意味のため削除した)	25.22	26.84	25.22~26.84m: 一部の割れ目では、割れ目沿いに薄く軟質化するが、硬質で割れ目は少ない。一部の割れ目には、幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟む。
97	26.67	26.67	55°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている(変位量12mm左スレ)。幅1mmの白色・軟弱粘土脈を挟む。	55°のせん断性割れ目は、交差する割れ目を止めている場合と横断する場合がある。幅1mmの連続性のない白色・軟弱粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	55°の割れ目を止まっているものと横断するものがあるため「変位量」を削除した。 割れ目及び周辺状況について追記した。 追記した理由や上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性、切っこんでいる」を削除した。 表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質)	26.67	26.67	26.67m: 傾斜55°の割れ目は交差する割れ目を止めている場合と横断する場合がある。幅1mmの連続性のない軟質な白色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
98	26.84	26.94	(岩級区分欄)CM	(岩級区分欄)DL	コアの硬さ、コアの形状のランクの変更に伴い、岩級を変更した。	26.84	26.94	(岩級区分欄)DL
99	26.84	27.38	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Cランク	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	周囲より割れ目が多く、やや軟質であるためコアの形状、コアの硬さの各ランクを変更した。	26.84	27.38	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク
100	26.84	28.73	互いに交差する40~60°割れ目が主体。上位に比べ割れ目が多くなる。割れ目の面は弱く風化するが、硬質(硬さC)。	互いに交差する40~60°割れ目が主体。上位に比べ割れ目が多くなる。割れ目の面は弱く風化する。やや硬質(硬さC)~やや軟質(硬さD)	コアに合わせて硬質を変更した。 表現の適正化(弱く⇒弱く)	26.84	28.73	26.84~28.73m: 互いに交差する傾斜40~60°の割れ目が主体である。上位に比べて割れ目が多い。割れ目の面は弱く風化する。やや硬質~やや軟質である。
101	27.30	27.32	上下端60°の割れ目に幅0.5~1mmの軟質な淡黄色粘土を伴ない。全体が粘土化進む。	上下端60°の割れ目に幅0.5~1mmの軟質な淡黄色粘土を伴ない。全体が粘土化進む。	表現の適正化(伴う、軟弱⇒軟質)	27.30	27.32	27.30~27.32m: 上下端60°の割れ目に幅0.5~1mmの軟質な淡黄色粘土を伴ない。全体が粘土化が進む。

H24-D1-2 27.38~31.46m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容		
102	27.38	27.80	(割れ目状態欄)Ⅱランク	27.38	27.80	(割れ目状態欄)Ⅱランク	27.38	27.80	(割れ目状態欄)Ⅱランク	
103	27.85	28.00	(コアの形状欄)Ⅳランク	27.85	28.00	(コアの形状欄)Ⅳランク	27.85	28.00	(コアの形状欄)Ⅳランク	
104	28.42	28.46	上端65°、下端55°割れ目に囲まれて径5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの風化で褐色化した軟質な粘土脈を伴っている。また、下端側の割れ目は幅5mm前後で淡緑色化した微細な白雲母片が露出する。	28.42	28.46	上端65°、下端55°割れ目に囲まれて径5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの風化で褐色化した軟質な粘土脈を伴っている。また、下端側の割れ目は幅5mm前後で淡緑色化した微細な白雲母片が露出する。	28.42	28.46	28.42~28.46m:上端65°、下端55°の割れ目に囲まれて径5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの風化で褐色化した軟質な粘土脈を伴い、幅5mm前後の淡緑色化が見られる。割れ目治いに白雲母片が露出する。	
105	28.50	28.73	(コアの形状欄)Ⅳランク	28.50	28.73	(コアの形状欄)Ⅳランク	28.50	28.73	(コアの形状欄)Ⅳランク	
106	28.73	30.20	割れ目が少なく硬質、40~60°割れ目が主体で、風化は弱く、割れ目の面がごく薄く褐色化する程度で砂状部は29.05m~60°割れ目に厚さ2mmで分布するのみ。粘土脈や粘土化部は分布しない。	28.73	30.20	割れ目が少なく硬質、40~60°割れ目が主体で、風化は弱く、割れ目の面がごく薄く褐色化する程度で砂状部は29.05m~60°割れ目に厚さ2mmで分布するのみ。 緑色化が見られる。粘土脈や粘土化部は分布しない。	28.73	30.20	28.73~30.20m:やや硬質で、傾斜40~60°の割れ目が主体であるが、割れ目は少ない。風化は弱く、割れ目の面がごく薄く褐色化する程度で、砂状部は29.05mの傾斜60°の割れ目に幅2mmで分布するのみである。緑色化が見られる。粘土脈や粘土化部は分布しない。	
107	28.98	29.21	(コアの形状欄)Ⅲランク	28.98	29.21	(コアの形状欄)Ⅲランク	28.98	29.21	(コアの形状欄)Ⅲランク	
108	29.21	30.20	(割れ目状態欄)Ⅱランク	29.21	30.20	(割れ目状態欄)Ⅱランク	29.21	30.20	(割れ目状態欄)Ⅱランク	
109	-	-		29.32	29.33	径2~5mmのカリ長石、石英が脈状に分布する。傾斜30°、幅10~12mm。	29.32	29.33	29.32~29.33m:傾斜30°、幅10~12mmで径2~5mmのカリ長石、石英が脈状に分布する。	
110	29.50	29.50	付近の55°と60°割れ目治いはマンガン鉱染で径2mm~3mm程度の斑点状に黒色化する。	29.45	29.45	付近の55°と60°割れ目治いはマンガン鉱染で径2mm~3mm程度の斑点状に黒色化する。	29.45	29.45	29.45m:傾斜55°と60°の割れ目治いはマンガン鉱染で径2~3mm程度の斑点状に黒色化する。	
111	30.20	31.44	上位と同じ硬さであり(硬さC)、割れ目は多くなる(Ⅳ)。互いに交差する30~60°割れ目からなる。粘土脈は分布せず。粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。	30.20	31.44	上位と同じ硬さであり(硬さC)、割れ目は多くなる(Ⅳ)。互いに交差する30~60°割れ目が分布する。粘土脈は分布せず。粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。	30.20	31.44	30.20~31.44m:上位と同じ硬さで、割れ目は多くなる。互いに交差する傾斜30~60°の割れ目が分布する。粘土脈は分布せず。粘土脈は少ない。割れ目の一部は砂状化する。	記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない
112	30.20	33.00	(風化欄)Ⅱランク	30.20	33.00	(風化欄)Ⅱランク	30.20	33.00	(風化欄)Ⅱランク	
113	30.68	30.75	上端・下端とも60°、幅2mmの軟質なぶい黄褐色粘土を伴う割れ目に囲まれて、割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土をはさんでいる。	30.68	30.75	上端・下端とも60°、幅2mmの軟質なぶい黄褐色粘土を伴う割れ目に囲まれて、割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土をはさんでいる。 30.68mの割れ目治いに緑色化している。	30.68	30.75	30.68~30.75m:上下端60°で幅2mmの軟質なぶい黄褐色粘土を伴う割れ目に囲まれた区間は、割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土を挟む。上端は緑色化する。	
114	30.76	31.00	(コアの形状欄)Ⅳランク	30.76	31.00	(コアの形状欄)Ⅳランク	30.76	31.00	(コアの形状欄)Ⅳランク	
115	31.22	31.40	(コアの形状欄)Ⅳランク	31.22	31.40	(コアの形状欄)Ⅳランク	31.22	31.40	(コアの形状欄)Ⅳランク	
116	30.76	31.40	(岩級区分欄)CM	30.76	31.40	(岩級区分欄)CM	30.76	31.40	(岩級区分欄)CM	
117	31.40	31.44	(コアの形状欄)Ⅳランク	31.40	31.44	(コアの形状欄)Ⅳランク	31.40	31.44	(コアの形状欄)Ⅳランク	
118	31.41	31.44	軟化し、マンガン鉱染も受けるが粘土・粘土脈等は分布せず。劣化は認められない。	31.41	31.44	軟化し、マンガン鉱染も受けるが粘土・粘土脈等は分布せず。劣化は認められない。	31.41	31.44	31.41~31.44m:軟質化し、マンガン鉱染も受けるが、粘土・粘土脈等は分布せず。劣化は認められない。	
119	31.44	31.46	破砕部(Hc-1(主せん断面)31.46m)上端・下端35°で両者と直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒を含む軟質な粘土で、灰白色~ぶい黄褐色(10YR 7/3)~灰赤色(2.5YR 6/2)を呈する。厚さ10~12mm。	31.44	31.46	破砕部 Hc-1(最新活動面)31.46m)上端・下端35°で両者と直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒を含む軟質な粘土で、灰白色~ぶい黄褐色(10YR 7/3)~灰赤色(2.5YR 6/2)を呈する。厚さ10~12mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	31.44	31.46	●31.44~31.46m:破砕部粘土状部(Hc-1)傾斜35°で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を含む。軟質。灰白~ぶい黄褐色~灰赤色を呈する。幅10~12mm。 ・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	

H24-D1-2 31.46~32.11m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
120	31.46	33.00	割れ目は少ないが、底密着割れ目が概ね10~30mm程度で分布するため、コア形状をVと評価した。底密着割れ目は30~60°が主体で、割れ目や底密着割れ目には幅0.5~2mmの軟質な白色~灰赤(2.5YR 6/2)粘土層を伴うものがある。	31.46	33.00	割れ目が多くなり、底密着割れ目が概ね10~30mm程度で分布するためコア形状をVと評価した。底密着割れ目は30~60°が主体で、割れ目や底密着割れ目には幅0.5~2mmの軟質な白色~灰赤色(2.5YR 6/2)粘土層を伴うものがある。	・誤記の修正(少ない⇒多くなる「色」の記載消滅) ・粘土を伴性するのは底密着割れ目であるため「割れ目」を削除した ・表現の適正化(軟質⇒軟質) ・文章の適正化(コア形状Vは記事欄以外から読み取れるため削除した)	31.46	33.00	31.46~33.00m:割れ目が多くなり、傾斜30~60°の底密着割れ目が1~3cm程度の間隔で分布する。底密着割れ目の一部には幅0.5~2mmの軟質な白~灰赤色粘土層を伴う。	-
121	31.70	31.80	幅10mm程度・30°のマンガン鉱染による黒褐色結状部が分布する。	-	-	-		31.70	31.80	31.70~31.80m:傾斜30°で幅10mm程度のマンガン鉱染による黒褐色結状部が分布する。	-
122	-	-	-	32.05	32.11	32.05~32.11m間はマンガン汚染が顕著に見られる。	・マンガン汚染は断面と異なる状況であるため追記した。	32.05	32.11	32.05~32.11m:マンガン汚染が顕著に見られる。	-

余白

H24-D1-4

H24-D1-4 0.00~9.20m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
1	0	2.94	埋戻し土	0.00	7.62	盛土 ・表視の統一(盛土, 0.00) ・人工堆積物を盛土として一括して下端深度を変更した	0.00	7.62	0.00~7.62m: 盛土	
2	0	0.32	礫 φ3~30mmの黒色砂石からなる。	0.00	0.32	礫 φ3~30mmの黒色砂石からなる。 ・表視の統一(0.00)	0.00	0.32	0.00~0.32m: 礫 径5~30mmの黒色砂石からなる。	
3	0.00	0.32	(地質名欄) 礫(埋戻し土)	0.00	0.32	(地質名欄) 礫(盛土) ・表視の統一(盛土)	0.00	0.32	(地質名欄) 盛土	地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
4	0.32	2.94	硬凝り粗砂 φ3~40mmのGo, Ap, 垂角~垂円礫を含む粗砂で ルーズである。φ3~10mmの砂石片を多く含む。	0.32	2.94	硬凝り粗砂 φ3~40mmのGo, Ap, 垂角~垂円礫を含む粗砂で ルーズである。φ3~10mmの砂石片を多く含む。 ・表視の適正化(凝り) ・砂石の岩種名に変更した	0.32	2.94	0.32~2.94m: 硬凝り粗砂 径3~40mmの花崗斑岩, アプライトの垂角~垂円礫を含むルーズな粗砂 からなり、径3~10mmの砂石を多く含む。	
5	0.32	2.94	(地質名欄) 硬凝り粗砂(埋戻し土)	0.32	2.94	(地質名欄) 硬凝り粗砂(盛土) ・表視の適正化(凝り) ・表視の統一(盛土)	0.32	2.94	(地質名欄) 盛土	地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
6	2.94	5.60	(地質名欄) 砂礫(改良土)	2.94	5.60	(地質名欄) 砂礫(盛土) ・表視の統一(盛土)	2.94	5.60	(地質名欄) 盛土	地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
7	2.94	5.60	砂礫 φ5~130mmのGo, Ap, 垂角~垂円礫で硬質な ものが主体。一部で半クサリ礫も含む。基質は中砂 ~粗砂でやや締っている。硬含有率は40~50%で あるが、5.15m以深ではφ10mm前後の小粒の礫が 主体。	2.94	5.60	砂礫 φ5~130mmのGo, Ap, 垂角~垂円礫で硬質な ものが主体。一部で半クサリ礫も含む。基質は中砂 ~粗砂でやや締っている。硬含有率は40~50%で あるが、5.15m以深ではφ10mm前後の小粒の礫が 主体。 ・表視の適正化(やや)	2.94	5.60	2.94~5.60m: 砂礫 径5~130mmの花崗斑岩, アプライトの垂角~垂円礫で、硬質なものが主 体。一部で半クサリ礫も含む。基質は中~粗砂でやや締まる。硬含有率は40 ~50%であるが、5.15m以深では径10mm前後の礫が主体である。	
8	4.96	5.12	φ10~60mmのコンクリート片を含む。				4.96	5.12	4.96~5.12m: 径10~60mmのコンクリート片を含む。	
9	5.60	7.40	硬凝り粗砂 上位深度よりも硬質が減少した。上位よりルー ズとなる。礫はφ5~10mmの小粒で半クサリ礫のGo 主体で、一部クサリ礫となる。	5.60	7.62	硬凝り粗砂 上位深度よりも硬質が減少する。上位よりルー ズとなる。礫はφ5~10mmの小粒で半クサリ礫のGo 主体で、一部クサリ礫となる。 ・表視の適正化(凝り)する。クサリ化する⇒クサリ礫となる ・コアに合わせて深度を変更した ・文章の適正化(礫径の数値の記載のため、「小粒」を削除した)	5.60	7.62	5.60~7.62m: 硬凝り粗砂 上位に比べて硬質が減少する。上位よりルーズとなる。礫は径5~10mmの 花崗斑岩の半クサリ礫が主体で、一部クサリ礫を含む。	
10	5.60	7.62	(地質名欄) 硬凝り粗砂(改良土)	5.60	7.62	(地質名欄) 硬凝り粗砂(盛土) ・表視の適正化(凝り) ・表視の統一(盛土)	5.60	7.62	(地質名欄) 盛土	地質名欄に記載する人工堆積物の名称を統一した
11	6.00	6.45	φ10mm前後主体に硬質が多い。硬含有率は50% 程度で上下に比べ締っている。礫はφ10mm以下の 小粒でも硬いものが多い。	6.00	6.45	φ10mm前後主体に硬質が多い。硬含有率は50% 程度で上下に比べ締っている。礫はφ10mm以下の 小粒でも硬いものが多い。 ・表記の修正(主体に硬質⇒主体になり、硬質) ・文章の適正化(径10mm前後と記載しているため、径10mm以下の 小粒でも硬いものが多い)	6.00	6.45	6.00~6.45m: 径10mm前後の硬質な礫が主体となり、硬質が多い。硬含 率は50%程度で上下に比べて締っている。	
12	6.36	6.42	明赤灰色(2.5YR 7/1)の軟弱な粘土が不規則なア メーバ状に分布する。浅部ないし深部側への連続 性はない。	6.36	6.42	明赤灰色(2.5YR 7/1)の軟弱な粘土が不規則な軟 弱なアメーバ状に分布する。浅部ないし深部側への連 続性はない。 ・表視の適正化(アメーバ状⇒軟弱⇒軟質)	6.36	6.42	6.36~6.42m: 明赤灰色の軟弱な粘土が不規則な形で分布する。浅部な いし深部側への連続性はない。	
13	7.00	-	7.00m以深では風化した半クサリ礫が多くなる。	-	-		7.00	-	7.00m以深では風化した半クサリ礫が多くなる。	
14	7.40	-	7.40m以深は硬質少ないルーズな花崗岩質の粗砂 の基盤礫	7.40	-	7.40m以深は硬質少ないルーズな花崗岩質の粗砂 の基盤礫 ・7.62m以深が基盤礫であったため削除した	7.40	-	7.40m以深は硬質が少ないルーズな花崗岩質の粗砂からなる。	
15	7.62	7.62	7.62mで覆層	-	-		-	-		下記に花崗斑岩の区間を示しているため着層の記載はしない
16	-	-	φ2~8mm石英と長石を顕晶とする花崗斑岩(Go)	7.62	17.89	花崗斑岩 φ2~10mm石英と長石の顕晶を5~15%程度含 む。 ・地質名及び区間深度も追記した ・石英の顕晶の径及び顕晶の含有率をコアに合わせて追記・修正し た	7.62	17.89	7.62~17.89m: 花崗斑岩 径2~10mmの石英、長石の顕晶を5~15%程度含む。	
17	7.62	9.26	層理組織と割れ目は残存している。変質粘土部 や粘土脈は殆んど分布しない。割れ目は30~60° が主体で、一部でこれらに斜交~直交する60~80° 割れ目も分布する。風化により、割れ目ぞいに数 mm程度砂状化~小細片化することもある。	7.62	9.26	層理組織と割れ目は残存している。変質粘土部 や粘土脈は殆んど分布しない。割れ目は30~60° が主体で、一部でこれらに斜交~直交する60~80° 割れ目も分布する。風化により、割れ目ぞいに数 mm程度砂状化~小細片化することもある。 ・表視の適正化(層理組織, 泡い)	7.62	9.26	7.62~9.26m: 層理組織と割れ目は残存し、変質粘土部や粘土脈は殆 んど分布しない。傾斜30~60°の割れ目が主体で、一部で傾斜60~80° の割れ目が交差する。風化により割れ目ぞいに数mm程度砂状~小細片 化する。	
18	8.78	8.91	60°割れ目, 8.91m~65°割れ目に軟弱な白色粘 土が幅0.5mmで断続的に付着している。	8.78	8.91	60°割れ目, 8.91m~65°割れ目に軟弱な白色粘 土が幅0.5mmで断続的に付着している。 ・表記の修正(軟弱⇒軟質, 断続⇒断続)	8.78	8.91	8.78m~60°, 8.91m~65°の割れ目に幅0.5mmの軟弱な白色粘土が断続 的に付着する。	
19	-	-		9.05	9.20	褐色化が顕著に見られる。	9.05	9.20	9.05~9.20m: 褐色化が顕著に見られる。	
20	9.17	9.20	50°の消滅しかかった割れ目ぞいに風化により褐 色化する(7.5YR 5/6明褐色)が、砂状~粘土状な 劣化はない。	9.17	9.20	50°の消滅しかかった割れ目ぞいに風化により褐 色化する(7.5YR 5/6明褐色)が、砂状~粘土状な 劣化はない。 ・表視の適正化(泡い)	9.17	9.20	9.17~9.20m: 傾斜50°の消滅しかかった割れ目ぞいに風化により褐色 化する。砂状~粘土状などの劣化はない。	

H24-D1-4 9.21~11.65m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
21	-	-		緑色変質が顕著である。 <input checked="" type="checkbox"/>	緑色変質は周囲と異なる状況であるため追記した	9.21	9.43	9.21~9.43m: 緑色変質が顕著である。
22	9.26	9.38	全体に風化と変質で軟質化著しくなる。このうち、区間の上部側9.26~9.32mと下部側9.38~9.39mでは、φ5~10mmの緑灰色化した岩片主体で、岩片間には幅1mm程度の軟質な上端側には赤褐色、下端側は灰白色の粘土脈が分布し、粘土混り岩片状を呈する。区間中央部の9.32~9.34mでは、更に粘土化が進み、φ3~10mmの緑灰色化した粘土化岩片状を多く含む。上・下端45°、幅30mmの硬質粘土である。	全体に風化と変質で軟質化著しくなる。このうち、区間の上部側9.26~9.32mと下部側9.26~9.38mでは、φ5~10mmの緑灰色化した岩片主体で、岩片間には幅1mm程度の軟質な上端側には赤褐色、下端側は灰白色の粘土脈が分布し、粘土混り岩片状を呈する。区間中央部の9.32~9.34mでは、更に粘土化が進み、φ3~10mmの緑灰色化した粘土化岩片状を多く含む。上・下端45°、幅30mmの硬質粘土である。	・表視の適正化(軟質化、軟弱⇒軟質、混り) ・文章の適正化(区間深度の記載があるため上端側、下端側、区間中央部を削除した)	9.26	9.38	9.26~9.38m: 全体に風化と変質で軟質化が著しい。9.26~9.32mと9.38~9.39mでは、粘土混り岩片状を呈し、径5~10mmの緑灰色化した岩片主体で、岩片間には幅1mm程度の軟質な赤褐色(上端側)~灰白色(下端側)の粘土脈が分布する。9.32~9.34mでは、傾斜45°で幅30mm程度の更に粘土化した硬質粘土で、径3~10mmの緑灰色化した粘土化岩片を多く含む。
23	9.34	9.36	上端45°、下端50°で直線的に連続する幅5~15mmの軟質な赤褐色を呈する粘土脈である。	上端45°、下端50°で直線的に連続する幅5~15mmの軟質な赤褐色を呈する粘土脈である。	・表視の統一(軟弱⇒軟質)	9.34	9.36	9.34~9.36m: 上端45°、下端50°で直線的に連続する幅5~15mmの軟質な赤褐色を呈する粘土脈を挟む。
24	-	-		褐色化が顕著に見られる。	褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した	9.43	9.50	9.43~9.50m: 褐色化が顕著に見られる。
25	9.38	10.76	硬さ「D」主体で、一部に風化で著しく軟化した硬さ「E」も含む。一部で消滅しかかっている割れ目が分布するが、大半は割れ目として残存する。30~70°割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~40°割れ目も分布するが、後者の割れ目は前者の割れ目と切れることが多い。10.00m以深では、前者の割れ目(30~70°)に幅1~2mmの軟質な灰白色(10YR 8/1)~淡黄色(2.5Y 7/3)の粘土脈として含まれることが多い。	全体にやや軟質で、一部は風化で著しく軟化した硬さ「E」も含む。一部で消滅しかかっている割れ目が分布するが、大半は割れ目として残存する。30~70°割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~40°割れ目も分布するが、後者の割れ目は前者の割れ目と切れることが多い。10.00m以深では、前者の割れ目(30~70°)に幅1~2mmの軟質な灰白色(10YR 8/1)~淡黄色(2.5Y 7/3)の粘土脈として含まれることが多い。一部はマンガンを含み、いずれの割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・30~70°の割れ目が20~40°の割れ目で止まっている部分もあり、前者が一方的に後者を切っているわけではないため「切られる」を「止まっている」に変更した ・表視の適正化(軟質化、軟弱⇒軟質、挟む) ・マンガンの存在は周囲と異なる状況であるため追記した ・割れ目周辺の状況について追記した ・文章の適正化(硬さD主体⇒全体にやや軟質、硬さEは著しく軟化したと同等であるため削除した)	9.38	10.76	9.38~10.76m: 全体にやや軟質で、一部は風化により著しく軟質化する。一部で消滅しかかっているが、大半の割れ目は残留し、傾斜30~70°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~40°の割れ目も分布する。後者の割れ目は前者の割れ目と止まっていることが多い。10.00m以深では、前者の割れ目に幅1~2mmの軟質な灰白~淡黄色粘土を挟み、一部にはマンガンを含み、いずれの割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
26	10.00	11.22	(変質欄)3ランク	(変質欄)2ランク	・下位と同様な変質の程度であるため変質のランクを2ランクに変更した	10.00	11.22	(変質欄)2ランク
27	10.76	10.88	上端35°、下端30°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続する。20~35°割れ目の一部に幅0.5~1mmの軟質な一部硬質な灰黄色(2.5Y 7/2)粘土脈を挟む粘土混り岩片状で、色調は赤褐色(7.5YR 7/3)を呈する。厚さ110mm。	上端35°、下端30°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続する。20~35°割れ目の一部に幅0.5~1mmの軟質な一部硬質な灰黄色(2.5Y 7/2)粘土脈を挟む粘土混り岩片状で、色調は赤褐色(7.5YR 7/3)を呈する。厚さ110mm。	・表視の適正化(軟弱⇒軟質、挟む、混り) ・表視の統一(固結⇒硬質)	10.76	10.88	10.76~10.88m: 上端35°で直線的にシャープに、下端30°で波打って連続。傾斜20~25°の割れ目の一部に幅0.5~1mmの軟質な一部硬質な灰黄色粘土脈を挟み粘土混り岩片状を呈する。赤褐色を呈する。幅110mm。
28	10.76	10.91	(割れ目状態欄)cランク	(割れ目状態欄)cランク	・割れ目が隠れたため割れ目状態のランクをcランクに変更した	10.76	10.91	(割れ目状態欄)cランク
29	10.76	11.22	(岩級区分欄)D	(岩級区分欄)DL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	10.76	11.22	(岩級区分欄)DLに含める
30	10.88	10.91	上端30°、下端35°で、両者とも直線的でシャープに連続する。φ5~10mmの風化軟化~粘土化岩片を含む硬質粘土であるが、従来のHbに比べ、粘土量は少ない。最下位部の幅5mmは理化学で硬化している。また、マンガン鉱染により、一部は黒褐色化する。全体の色調は、赤褐色(7.5YR 7/3)~黒褐色(10YR 3/1)である。厚さ20~30mm。	上端30°、下端35°で、両者とも直線的でシャープに連続する。φ5~10mmの風化軟化~粘土化岩片を含む硬質粘土である。硬質粘土であるが従来のHbに比べ、粘土量は少ない。最下位部下部の幅5mmは理化学で硬化している。また、マンガン鉱染により、一部は黒褐色化する。全体の色調は、赤褐色(7.5YR 7/3)~黒褐色(10YR 3/1)である。厚さ20~30mm。	・破砕帯と認定しておらず、Hbと比較する必要がないため「硬質粘土」であるが、従来のHbに比べ、粘土量は少ない。との記載を削除した ・表視の適正化(軟質化、硬質化、最下位部⇒下部側) ・粘土量が少なかったため粘土質硬質粘土に変更した。	10.88	10.91	10.88~10.91m: 上端30°、下端35°でともに直線的でシャープに連続する。径5~10mmの風化して軟質化~粘土化した岩片を含む粘土質硬質粘土である。下端側の幅5mmは理化学で硬化し、マンガン鉱染により一部は黒褐色化する。全体では赤褐色~黒褐色を呈する。幅20~30mm。
31	10.91	10.93	破砕帯 Hc-2(D-1破砕帯(主せん断面・10.93m)上端35°、下端38°で、両者とも直線的でシャープに連続する。φ1~2mmの石英粒と粘土化したφ3~5mmの岩片を若干含む軟質な淡黄褐色(10YR 8/4)の粘土で、最下位には石英粒、岩片を含むφ1~2mmの赤褐色(10YR 7/1)粘土が連続する。全体の色調は、淡黄褐色(10YR 8/4)で厚さ15~18mm	破砕帯 Hc-2(D-1破砕帯(最新活動面・10.93m)上端35°、下端38°で、両者とも直線的でシャープに連続する。φ1~2mmの石英粒と粘土化したφ3~5mmの岩片を若干含む軟質な淡黄褐色(10YR 8/4)の粘土で、最下位には石英粒、岩片を含むφ1~2mmの軟質な灰白色(10YR 7/1)粘土が連続する。全体の色調は、淡黄褐色(10YR 8/4)で厚さ15~18mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・用語の統一(破砕帯⇒破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・破砕帯名は詳細であるため削除した ・廃棄された破砕帯内物質の名称を硬質粘土に変更した ・表視の適正化(軟弱⇒軟質) ・やや積まった灰白色粘土は、上位の硬質粘土と同等の硬さであるため軟質に変更した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	10.91	10.93	●10.91~10.93m: 破砕部 硬質粘土(破砕部) Hc-2でともに直線的でシャープに連続する。径1~2mmの石英粒と粘土化した径3~5mmの岩片を若干含む軟質な淡黄褐色(10YR 8/4)の粘土で、最下位には石英粒、岩片を含むφ1~2mmの軟質な灰白色(10YR 7/1)粘土を若干含む。軟質。下端には石英粒、岩片を含むφ1~2mmの軟質な灰白色粘土が連続する。全体は淡黄褐色を呈する。幅15~18mm。
32	10.93	11.22	粘土化部や粘土脈は殆んど分布しないが、全体が軟質化している。	粘土化部や粘土脈は殆んど分布しないが、全体が軟質化している。	・表視の適正化(軟質化)	10.93	11.22	10.93~11.22m: 粘土化部や粘土脈は殆んど分布しないが、全体に軟質化している。
33	11.22	11.65	50~70°割れ目主体で、これに斜交~直交する20~50°割れ目が一部に分布する。粘土脈は殆んど挟まないが、割れ目沿いに砂状化する。	50~70°割れ目主体で、これに斜交~直交する20~50°割れ目が一部に分布する。粘土脈は殆んど挟まないが、割れ目沿いに砂状化する。	・表視の適正化(挟む、沿い)	11.22	11.65	11.22~11.65m: 傾斜50~70°の割れ目が主体で、これに斜交~直交する20~50°の割れ目が一部に分布する。粘土脈は殆んど挟まないが、割れ目沿いに砂状化する。

H24-D1-4 11.65~18.44m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	記事	記事	記事		記事	記事	
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
34	11.65	17.89	上位より割れ目が少なくなる。コア形状IVである。硬さDの薄片が主体であり、割れ目その一部に風化で軟化した硬さが分布している。	11.65 17.89 上位より割れ目が少なくなる。コア形状IV主体である。硬さDの薄片が主体であるが、割れ目沿いの一部に風化で軟質化した硬さが分布している。	・コア形状Vも分布するため「主体」を追加した。 ・表現の適正化(扱い、軟質化)	11.65	17.89	11.65~17.89m:上位より割れ目が少なくなる。全体にやや軟質であるが、割れ目沿いの一部は風化でより軟質化する。
35	11.90	12.16	(コアの形状欄)IVランク	11.90 12.16 (コアの形状欄)Vランク	・周囲に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	11.90	12.16	(コアの形状欄)Vランク
36	12.00	13.00	(最大コア長欄)9	12.00 13.00 (最大コア長欄)7	・最大コア長9cmとした箇所にも密着割れ目が存在するため最大コア長を変更した	12.00	13.00	(最大コア長欄)7
37	15.27	-	15.27m以深では、割れ目は風化し褐色化するが、割れ目周辺の砂状化は認められなくなる。粘土化部は分布せず、割れ目には含まれる粘土層の分布も少ない。割れ目沿いの一部は薄くマンガン鉱染を受ける。	15.27 - 15.27m以深では、割れ目は風化し褐色化するが、割れ目周辺の砂状化は認められなくなる。粘土化部は分布せず、割れ目には含まれる粘土層の分布も少ない。割れ目沿いの一部は薄くマンガン鉱染を受ける。	・表現の適正化(挟む、扱い、受ける)	15.27	-	15.27m以深は、割れ目は風化し褐色化するが、割れ目周辺の砂状化は認められず、割れ目に挟み込まれる粘土層の分布も少ない。割れ目沿いの一部は薄くマンガン鉱染を受ける。
38	12.60	12.60	45° 幅1~2mmの石英脈、境界に沿って割れ目化し、割れ目も含む周辺10~20mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	12.60 12.60 45° 幅1~2mmの石英脈、境界に沿って割れ目化し、割れ目とその周辺幅10~20mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	・表現の適正化(扱い) ・文章の適正化 ・脚注の修正(「幅」の記載漏れ)	12.60	12.60	12.60m:傾斜45°で幅1~2mmの石英脈を挟み、境界は割れ目化する。割れ目とその周辺の幅10~20mmはマンガン鉱染により黒褐色化する。
39	13.00	13.38	風化で砂状化が進む部分が多い。	- - -	-	13.00	13.38	13.00~13.38m:風化で砂状化が進む部分が多い。
40	13.00	14.00	(最大コア長欄)4	13.00 14.00 (最大コア長欄)6	・最大コア長が6cmのところは認められるため修正した	13.00	14.00	(最大コア長欄)6
41	13.45	16.80	φ5~10mmの粘土化し白濁化した長石珩晶を多く含む。	- - -	-	13.45	16.80	13.45~16.80m:径5~10mmの粘土化し白濁化した長石珩晶を多く含む。
42	14.00	15.00	(最大コア長欄)9	14.00 15.00 (最大コア長欄)7	・最大コア長9cmとした箇所にも密着割れ目が存在するため最大コア長を変更した	14.00	15.00	(最大コア長欄)7
43	15.00	15.21	(コアの形状欄)IVランク	15.00 15.21 (コアの形状欄)Vランク	・下に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	15.00	15.21	(コアの形状欄)Vランク
44	15.27	17.89	(風化欄)Aランク	15.27 17.89 (風化欄)Bランク	・風化の程度がやや強いため風化のランクをBランクに変更した	15.27	17.89	(風化欄)Bランク
45	15.50	15.50	55° 割れ目に幅1~10mmと膨縮する軟弱な灰黄色(2.5Y 7/2)粘土層がはさまれる。	15.50 15.50 55° 割れ目に幅1~10mmと膨縮する軟弱な灰黄色(2.5Y 7/2)粘土層が挟まれる。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む)	15.50	15.50	15.50m:傾斜55°で幅1~10mmと膨縮する軟弱な灰黄色粘土層を挟む。
46	16.00	17.10	複数の75~85°で湾曲しながら連続する割れ目が分布する。一部で幅1mmの軟弱な灰黄色粘土をはさむ。	16.00 17.10 複数の75~85°で湾曲しながら連続する割れ目が分布する。一部で幅1mmの軟弱な灰黄色粘土を挟む。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む)	16.00	17.10	16.00~17.10m:複数の傾斜75~85°で湾曲しながら連続する割れ目が分布する。一部で幅1mmの軟弱な灰黄色粘土を挟む。
47	16.84	17.10	(コアの形状欄)IVランク	16.84 17.10 (コアの形状欄)Vランク	・周囲に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	16.84	17.10	(コアの形状欄)Vランク
48	17.03	17.03	45° 幅2mmの石英脈が母岩に密着して連続。	- - -	-	17.03	17.03	17.03m:傾斜45°、17.82m:40°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続
49	17.32	17.32	60° 幅2mm軟質~半固結状の明灰グリーン色(2.5GY 7/1)の粘土層が分布。礫質な白雲母を伴う。	17.32 17.32 60° 幅2mm軟質~やや硬質な明灰グリーン色(2.5GY 7/1)の粘土層が分布。礫質な白雲母を伴う。割れ目に沿って褐色化が顕著に見られる。	・鉱物を適正化した(軟質⇒白雲母) ・顕著な褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した ・表現の適正化(遷移⇒漸移、ただし、原岩組織、軟質化) ・表現の統一(半固結状⇒やや硬質な)	17.32	17.32	17.32m:傾斜60°で幅2mmの軟質~やや硬質な明灰グリーン色の粘土層を挟む。微細な白雲母を伴う。割れ目に沿って褐色化が顕著に見られる。
50	17.82	17.82	40° 幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続。	- - -	-	-	-	・上記でまとめ書きしたため記載しない
51	17.89	18.44	花崗岩(Gr) 上端50°で幅3~4mm石英脈とφ2~5mmの淡緑色鉱物(緑泥石?)を伴って、平均φ3~5mmの石英、長石、φ1~3mmの黒雲母の各珩晶をもつ黒雲母花崗岩が分布する。長石珩晶はφ10mm程度と大型化するものも含み、全体が等粒状組織をなす。下端境界はGpに遷移している。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが、これ以外での粘土化はない。ただし、割れ目や岩組織は残留するが、風化で著しく軟化する。	17.89 18.44 黒雲母花崗岩(Gr) 上端50°で幅3~4mm石英脈とφ2~5mmの淡緑色鉱物(緑泥石?)を伴って、平均φ3~5mmの石英、長石、φ1~3mmの黒雲母の各珩晶をもつ黒雲母花崗岩が分布する。長石珩晶はφ10mm程度と大型化するものも含み、全体が等粒状組織をなす。下端境界はGpに漸移している。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが、これ以外での粘土化はない。ただし、割れ目や原岩組織は残留するが、風化で著しく軟質化している。	・地質名欄に合わせて地質名を変更した ・緑泥石であるため「?」を削除した ・表現の適正化(遷移⇒漸移、ただし、原岩組織、軟質化)	17.89	18.44	17.89~18.44m:黒雲母花崗岩 上端50°で幅3~4mmの石英脈と径2~5mmの緑泥石を伴って、平均径3~10mmの石英、長石、径1~3mmの黒雲母の珩晶からなり、等粒状組織をもつ黒雲母花崗岩である。長石は径10mmと大型化するものもある。下端境界は花崗岩に漸移する。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが、これ以外での粘土化はない。割れ目や原岩組織は残留するが、風化で著しく軟化する。
52	17.89	18.44	(割れ目状態欄)Bランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (岩級区分欄)D	17.89 18.44 (割れ目状態欄)Cランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、岩級区分のランクを変更した	17.89	18.44	(割れ目状態欄)Cランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL

H24-D1-4 18.44~24.00m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	記事	記事	記事		記事	記事	
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容	
53	-	-		18.44 70.00 花崗斑岩 19.11~19.33m, 28.43~30.40m付近, 55.84~57.00m付近など斑晶の量が少なく、アプライト様を呈する部分を挟む。	花崗斑岩の分布について区間深度を追記した アプライト様の部分を挟むことを追記した	18.44 70.00	18.44~70.00m:花崗斑岩 19.11~19.33m, 28.43~30.40m付近, 55.84~57.00m付近など斑晶の量が少なく、アプライト様を呈する部分を挟む。	
54	18.44	21.00	30~50° 割れ目が主体で、一部で、これらに60~70° 割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部に幅1~2mmの軟弱な粘土脈を挟むが、頻度は低い。	18.44 21.00 30~50° 割れ目が主体で、一部で、これらに60~70° 割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部に幅1~2mmの軟弱な粘土脈を挟むが、頻度は低い。	粘土脈の色調を追記した 表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む) 表現の適正化(軟弱⇒硬質、挟む) 文章の適正化(一部と記載しているため頻度は低いを削除した)	18.44 21.00	18.44~21.00m:傾斜30~50° の割れ目が主体で、一部で60~70° の割れ目が交差する。一部に幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈を挟む。	
55	18.90	19.10	(コアの形状欄) Vランク	18.90 19.10 (コアの形状欄) Vランク	周囲に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	18.90 19.10	(コアの形状欄) Vランク	
56	19.08	19.08	50° 割れ目は幅2~3mmの固結粘土脈を挟み、上盤側約50mmがマンガン鉱染を受ける。	19.08 19.08 50° 割れ目は幅2~3mmの硬質な褐色粘土脈を挟み、上端側幅約50mmがマンガン鉱染を受ける。	粘土脈の色調を追記した 表現の適正化(挟む、受ける) 表現の様(固結⇒硬質) 上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した 略記の修正(幅)の記載漏れ	19.08 19.08	19.08m:傾斜50° で幅2~3mmの硬質な褐色粘土脈を挟み、上端側幅約50mmはマンガン鉱染を受ける。	
57	18.90	19.75	幅1~5mm, 30~50° で母岩に密着して石英脈が複数分布。脈周辺に粘土化は伴わない。	18.90 19.75 幅1~5mm, 30~50° で母岩に密着して石英脈が複数分布。脈周辺に粘土化は伴わない。	表現の適正化(様)	18.90 19.75	18.90~19.75m:傾斜30~50° で幅1~5mmの石英脈が母岩に密着して複数分布する。脈周辺に粘土化は伴わない。	
58	20.60	20.60	70° 割れ目ぞいに風化褐色化が進むが、砂状化などの劣化は伴わない。割れ目ぞいはマンガン鉱染で黒褐色化する。	20.60 20.60 70° 割れ目ぞいに風化褐色化が進むが、砂状化などの劣化は伴わない。割れ目ぞいはマンガン鉱染で黒褐色化する。	表現の適正化(扱い、様)	20.60 20.60	20.60m:傾斜70° の割れ目ぞいに風化して褐色化が進むが、砂状化などの劣化は伴わない。割れ目ぞいはマンガン鉱染で黒褐色化する。	
59	20.90	21.66	(風化欄) δランク	20.90 21.66 (風化欄) δランク	風化の程度がやや強いため風化のランクをδランクに変更した	20.90 21.66	(風化欄) δランク	
60	21.00	21.66	割れ目は少ないが、一部で60° 前後の低密着割れ目を含み、打撃で分離し易い。	- -		21.00 21.66	21.00~21.66m:割れ目は少ないが、一部で傾斜60° 前後の低密着割れ目を含み、打撃で分離し易い。	
61	21.19	21.44	21.19m・35°、21.44m・50° のいずれも幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	- -		21.19 21.44	21.19m・35°、21.44m・50° で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	
62	21.44	21.66	(コアの形状欄) IIIランク	21.44 21.66 (コアの形状欄) IVランク	上位に比べて割れ目がやや多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した	21.44 21.66	(コアの形状欄) IVランク	
63	21.50	21.50	60° はせん断性割れ目で、上記の21.44m・50° 石英脈を切っている(変位置不明)	21.50 21.50 60° のせん断性割れ目は、上記の21.44m・50° 石英脈で横断される。を切っている(変位置不明) 割れ目には不連続な黄灰色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	石英脈はせん断性割れ目を横断しており、せん断割れ目が横断する長石もズレないため「切っている」及び変位置の記載を削除した 割れ目及び周辺の状況について追記した 上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	21.50 21.50	21.50m:傾斜60° の割れ目は、21.44m・50° の石英脈で横断される。割れ目には不連続な黄灰色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
64	21.66	26.78	30~50° 割れ目が主体 割れ目ぞいに薄く砂状化したり、幅1~3mmの軟弱な灰白色などの粘土脈を挟むことがある。後者の分布頻度は低い。	21.66 26.78 30~50° 割れ目が主体 割れ目ぞいに薄く砂状化したり、幅1~3mmの軟弱な灰白色などの粘土脈を挟むことがある。後者の分布頻度は低い。	表現の適正化(扱い、軟弱⇒軟質、挟む)	21.66 26.78	21.66~26.78m:傾斜30~50° の割れ目が主体で、割れ目ぞいに薄く砂状化したり、幅1~3mmの軟弱な灰白色などの粘土脈を挟むことがある。粘土脈の分布は少ない。	
65	22.36	22.40	φ15mmと大型の長石斑晶2ヶが晶出。	22.36 22.40 φ15mmの大型の長石斑晶が2個見られる晶出。	表現の適正化(2ヶ⇒2個、晶出しているわけではないため、見られるに変更した) 文章の適正化	22.36 22.40	22.36~22.40m:後15mmの大型の長石斑晶が2個見られる。	
66	22.72	22.78	22.72m・45° ~22.78m・50° は風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。	22.72 22.78 22.72m・45° ~22.78m・50° は風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。22.78mの割れ目に沿って褐色化が見られる。	割れ目に沿った褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した 表現の適正化(様)	22.72 22.78	22.72m・45° ~22.78m・50° の間は、風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。22.78mの割れ目に沿って褐色化が見られる。	
67	23.27	23.27	50° で多少湾曲した割れ目に幅1mm灰白色の軟弱粘土脈を挟む。	23.27 23.27 50° で多少湾曲した割れ目に幅1mm灰白色の軟弱粘土脈を挟む。	表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む)	23.27 23.27	23.27m:傾斜50° で多少湾曲した割れ目に幅1mmの軟弱な灰白色粘土脈を挟む。	
68	23.40	23.77	60~70° の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を切り、褐色風化で幅1~2mm砂状化する。	23.40 23.77 60~70° の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を横断し切り、褐色風化で幅1~2mm砂状化する。	割れ目は斑晶を横断しておりズレないため「切り」を「横断し」に変更した	23.40 23.77	23.40~23.77m:傾斜60~70° の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を横断する。割れ目ぞいに幅1~2mmで砂状化し、風化で褐色化する。	
69	-	-		23.76 24.00 傾斜70~90° 湾曲した高角度割れ目が分布する。幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。	湾曲した高角度割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した	23.76 24.00	23.76~24.00m:傾斜70~90° の湾曲した高角度割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。	

H24-D1-4 24.00~27.22m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		記事	上端深度	下端深度		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
70	-	-		24.15	24.40	径10~20mmの大型の石英、カリ長石、長石の斑晶が多い。	・大型の鉱物の斑晶は周囲と異なる状況であるため追記した	24.15	24.40	24.15~24.40m:径10~20mmの大型の石英、カリ長石、長石の斑晶が多い。	
71	24.59	24.59	40° 割れ目ぞい幅10mm淡緑灰色化(緑泥石化)。φ0.5mm前後の雲母を伴う。	24.59	24.59	40° 割れ目ぞい幅10mm淡緑灰色化(緑泥石化)。φ0.5mm前後の白雲母を伴う。	・コアに合わせて色調を変更した ・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母) ・表現の適正化(扱い)	24.59	25.61	24.59m、25.09m、25.61m:傾斜40~45°の割れ目ぞいに幅10~20mmが緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.5~1mmの白雲母を伴う。	・記事内容がほぼ同じであるため、25.09m、25.61mの記事を含めて記載した
72	25.10	25.10	45° 割れ目ぞい20mmが淡緑灰色化(緑泥石化)し、φ0.5~1mmの雲母を伴う。	25.09	25.09	45° 割れ目ぞい幅20mmが淡緑灰色化(緑泥石化)し、φ0.5~1mmの白雲母を伴う。	・コアに合わせて深度を変更した ・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母) ・表現の適正化(扱い) ・誤記の修正(「幅」の記載漏れ)	-	-	-	・上記でまとめ書きしたため記載しない
73	25.40	25.40	50° 幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布	-	-	-		25.40	25.40	25.40m:傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	-
74	-	-		25.41	25.41	傾斜55°、幅1~3mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。割れ目ぞいはわずかに緑色化。	・岩片混じり褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	25.41	25.41	25.41m:傾斜55°で幅1~3mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。割れ目ぞいはわずかに緑色化する。	-
75	25.61	25.61	40° 割れ目ぞい10mmが淡緑灰色化(緑泥石化)。φ0.5~1mmの雲母を若干伴う。	25.61	25.61	40° 割れ目ぞい幅10mmが淡緑灰色化(緑泥石化)。φ0.5~1mmの白雲母を若干伴う。幅1~2mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。	・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母) ・表現の適正化(扱い) ・誤記の修正(「幅」の記載漏れ) ・岩片混じり褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	25.61	25.61	25.61m:傾斜40°で幅1~2mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。	・淡緑灰色化については、上記でまとめ書きしたため記載しない
76	25.96	26.22	25.96m・50°~26.22m・45°の各割れ目に囲まれて、全体が風化で細片状~砂状化主体となる。	-	-	-		25.96	26.22	25.96m・50°~26.22m・45°の間は、全体が風化で細片状~砂状化が主体となる。	-
77	26.78	27.75	見掛け上は割れ目は少ないが、1~3cm間隔で低密着割れ目が分布し、ハンマーの打撃でφ1~3cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目ぞいに砂状化し、27.00~27.23mでは砂状部が掘削時に流失している。一部スライムを混入。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。	26.78	27.75	見掛け上は割れ目は少ないが、1~3cm間隔で低密着割れ目が分布し、ハンマーの打撃でφ1~3cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目ぞいに砂状化し、27.00~27.23mでは砂状部が掘削時に流失している。一部スライムを混入。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。	・表現の適正化(扱い) ・文章の適正化(割れ目は少なくないため削除した) ・スライムの区間を追記した	26.78	27.75	26.78~27.75m:低密着割れ目が1~3cm間隔で分布し、ハンマーの打撃で径1~3cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目ぞいに砂状化し、27.00~27.23mでは砂状部が掘削時に流失している。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。27.16~27.22m:スライム	-
78	27.16	27.22	{地質名欄}Go {割れ目状態欄}cランク {コアの形状欄}Vランク {コアの硬さ欄}Eランク {風化欄}aランク {実質欄}aランク {岩級区分欄}D	27.16	27.22	{地質名欄}コア欠如 {割れ目状態欄}空欄 {コアの形状欄}空欄 {コアの硬さ欄}空欄 {風化欄}空欄 {実質欄}空欄 {岩級区分欄}空欄	・コア欠如区間であるため地質名欄に追記した ・コア欠如区間であるため、各欄を空欄にした	27.16	27.22	{地質名欄}コア欠如 {割れ目状態欄}空欄 {コアの形状欄}空欄 {コアの硬さ欄}空欄 {風化欄}空欄 {実質欄}空欄 {岩級区分欄}空欄	-

H24-D1-4 27.75~29.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)			
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
79	27.75	28.43	破砕帯	27.75	28.43	破砕部	・用語の統一(破砕帯→破砕部)			●27.75~28.43m:破砕部 27.75~27.91m:粘土質礫状部(Hb) 上端20°、下端15°で、上端は砂状化し不明瞭、 下端は直線的でシャープに連続。やや軟質。φ2~ 3mm石英粒。φ5~10mmのほぼ粘土化した岩片を多く含む。 やや軟質。下端は幅2~3mmでマンガン鉱染を受ける。上端側は明褐色、 下端側は明赤灰色でマンガン鉱染部は黒褐色を呈する。幅160mm。 27.91~28.33m:粘土混じり岩片状部(Hh) 上端15°、下端53°でともに直線的でシャープに連続。幅1~5mmの 灰黄~にぶい黄橙(10YR 7/2)~灰白色(10YR 8/1)の軟質粘土が27.91~27.96mでは10~20° で、27.96m以深では網状に岩片間を縫うように分布。全体として粘 土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)~にぶい黄橙(10YR 7/2)で、厚さ40mm。 28.33m:粘土状部(Hc-1) 傾斜53°で直線的にシャープに幅2~5mmの灰黄褐色の軟質粘土 からなる。 28.33~28.43m:粘土質礫状部(Hb) 上端53°、下端60°でともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの 石英粒と径3~10mmの大半が粘土化したQp岩片からなる軟質な粘土質礫 部。灰白(5YR 8/1)~明赤灰(2.5R 7/1)~明黄褐色(10YR 6/6)を呈し、厚さ60mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、 基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
80	27.75	27.91	Hb 上端20°、下端15°で、上端は砂状化し不明瞭、 下端は直線的でシャープに連続。φ2~3mm石英 粒。φ5~10mmのほぼ粘土化した岩片を多く含む やや軟質。下端は幅2~3mmでマンガン 鉱染を受ける。上端側は明褐色、下端側は明赤灰 でマンガン鉱染部は黒褐色。厚さ160mm。	27.75	27.91	Hb 上端20°、下端15°で、上端は砂状化し不明瞭、 下端は直線的でシャープに連続。やや軟質。φ2~ 3mm石英粒。φ5~10mmのほぼ粘土化した岩片を 多く含む粘土質礫状部からなるやや軟質の硬質粘 土。下端は幅2~3mmでマンガン鉱染を受ける。上端 側は明褐色、下端側は明赤灰色でマンガン鉱染 部は黒褐色。厚さ160mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認め られる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片から なる組織が見られる。	・硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した。 ・27.91~28.33mのHhと同等の硬さであった硬軟を変更した。 ・傾記の修正(「色」の記載漏れ) ・表現の適正化(ほぼ) ・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、 基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。						
81	27.91	28.33	Hh 上端15°、下端53°で、両端ともに直線的でシャ ープに連続する。幅1~5mmの灰黄(2.5Y 7/2)~にぶ い黄橙(10YR 7/2)~灰白(10YR 8/1)の軟質粘土 が27.91~28.00mでは10~20°で、28.00m以深 では、網状に岩片間を縫うように分布。全体として粘 土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2) ~にぶい黄橙(10YR 7/2)で、厚さ40mm。	27.91	28.33	Hh 上端15°、下端53°で、両端ともに直線的でシャ ープに連続する。幅1~5mmの灰黄(2.5Y 7/2)~にぶ い黄橙(10YR 7/2)~灰白色(10YR 8/1)の軟質粘 土が27.91~27.96mでは10~20°で、27.96m以深 では、網状に岩片間を縫うように分布。全体として 粘土混じり岩片状を呈する。 やや軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布。原 岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化 した岩片からなる組織が見られる。 色調は明褐色(7.5YR 7/2)~にぶい黄橙(10YR 7/2)で、厚さ40mm。	・傾記の修正(「色」の記載漏れ) ・表現の適正化(軟弱→軟質、混じり) ・粘土の記載にある深度をコアに合わせて変更した。 ・硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主 体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・厚さ40mmは区間長から考え、傾記であるため削除した。	27.75	28.43				
82	28.33	28.33	Hc-1(主せん断面) 53°、幅2~5mmで直線的でシャープに連続する。 灰黄褐色(10YR 5/2)の軟弱粘土層。	28.33	28.33	Hc-1(最新活動面) 53°、幅2~5mmで直線的でシャープに連続する。 灰黄褐色(10YR 5/2)の軟質粘土層。原岩組織が 認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片か らなる組織は見られない。	・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(軟弱→軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片か らなる組織について追記した。						
83	28.33	28.43	Hb 上端53°、下端60°で、両者とも直線的でシャ ープに連続。φ1~2mmの石英粒と、φ3~10mmの大半 が粘土化したQp岩片からなる軟質な粘土質礫 部。灰白(5YR 8/1)~明赤灰(2.5R 7/1)~明黄褐 色(10YR 6/6)を呈し、厚さ60mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認め られる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片から なる組織は見られる。	28.33	28.43	Hb 上端53°、下端60°で、両者とも直線的でシャ ープに連続。φ1~2mmの石英粒と、φ3~10mmの大半 が粘土化したQp岩片からなる軟質な粘土質礫 部。灰白(5YR 8/1)~明赤灰(2.5R 7/1)~明黄褐 色(10YR 6/6)を呈し、厚さ60mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認め られる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片から なる組織は見られる。	・硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した。 ・表現の適正化(軟弱→軟質) ・傾記の修正(「色」の記載漏れ) ・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、 基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。						
84	27.75	27.91	(破砕度区分)記載なし	27.75	27.91	(破砕度区分)Hb	・上記の記載に合わせて破砕度区分を追記した	27.75	27.91	(破砕度区分)Hb			
85	27.91	27.95	(破砕度区分)記載なし	27.91	27.95	(破砕度区分)Hh	・上記の記載に合わせて破砕度区分を追記した	27.91	27.95	(破砕度区分)Hh			
86	28.43	29.73	岩片は硬さ「C」主体である。30~60°を主体に低 密着割れ目を多く含む。粘土層をはさむ割れ目は 少ない。28.70m以浅では、割れ目ぞいにマンガン 鉱染し、黒褐色化する。	28.43	29.73	岩片は硬さ「C」主体である。30~60°を主体に低 密着割れ目を多く含む。粘土層を挟む割れ目は少 ない。 28.70m以浅では、割れ目ぞいにマンガン鉱染し、黒 褐色化する。	・表現の適正化(扱い、挟む)	28.43	29.73	28.43~29.73m:傾斜30~60°主体の低密着割れ目を多く含む。粘土層を 挟む割れ目は少ない。 ・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない ・マンガン鉱染については下記に具体的に記載した			
87	27.57	27.57	65°割れ目は幅2mmの粘土層をはさむが、マンガ ン鉱染で黒褐色化する。	28.57	28.57	65°割れ目は幅2mmの粘土層を挟むが、マンガ ン鉱染で黒褐色化する。	・傾記の修正(27.57⇒28.57) ・表現の適正化(挟む)	28.57	28.57	28.57m:傾斜65°で幅2mmの粘土層を挟むが、マンガン鉱染で黒褐色化 する。			
88	28.71	29.00	(コアの硬さ欄)Bランク	28.71	29.00	(コアの硬さ欄)Cランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	28.71	29.00	(コアの硬さ欄)Cランク			

H24-D1-4 29.48~33.53m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	記事	記事	記事		記事	記事	
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
89	29.48	29.73	(コアの形状欄) Vランク	(コアの形状欄) IVランク	・上位に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	29.48	29.73	(コアの形状欄) IVランク
90	29.73	30.20	硬質で、割れ目も少ない。ほほ未風化、未変質である。	硬質で、割れ目も少ない。ほほ未風化、未変質である。	・表現の適正化(ほほ)	29.73	30.20	29.73~30.20m:硬質で割れ目も少ない。ほほ未風化、未変質である。
91	30.20	31.03	低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔のコア形状IVである。割れ目、低密着割れ目は30~50°主体で、両者ともに薄く砂状化する部分もある。	低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔のコア形状IVである。割れ目、低密着割れ目は30~50°主体で、両者ともに薄く砂状化する部分もある。	・表現の適正化(扱い)	30.20	31.03	30.20~31.03m:低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔である。割れ目、低密着割れ目は傾斜30~50°が主体で、それらに沿って薄く砂状化する部分もある。
92	31.03	32.30	60~70°割れ目、低密着割れ目が主体で、一部で、これらに斜交~直交する40~50°割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目沿いに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んど挟まない。	60~70°割れ目、低密着割れ目が主体で、一部で、これらに斜交~直交する40~50°割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目沿いに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んど挟まない。 31.25~31.40m間はやや湾曲した傾斜40~90°で、31.60~31.61mでは傾斜50°で、傾斜20mm程度のカリ長石の濃集部の脈を伴う。	・表現の適正化(扱い、挟む) ・カリ長石の濃集部の脈は周囲と異なる状況であるため追記した	31.03	32.30	31.03~32.30m:傾斜60~70°の割れ目、低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する40~50°の割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目沿いに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んど挟まない。 31.25~31.40m間はやや湾曲した傾斜90~90°で、31.60~31.61mでは傾斜50°で、傾斜20mm程度のカリ長石の濃集部の脈を伴う。
93	31.37	31.51	1~1.5cm間隔で60~70°割れ目~低密着割れ目が平行に分布する。	-		31.37	31.51	31.37~31.51m:1~1.5cm間隔で傾斜60~70°の割れ目、低密着割れ目が平行に分布する。
94	31.75	32.30	85~90°割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に軟質な灰白色粘土層1~2mmが付着する。	85~90°割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に軟質な灰白色粘土層1~2mmが付着する。	・表現の適正化(やや、軟弱⇒軟質)	31.75	32.30	31.75~32.30m:傾斜85~90°の割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な灰白色粘土が付着する。
95	32.13	32.13	60°、幅5~8mmで径1~3mmの角礫化した破砕割れ目が分布する。基質は砂質土で、マンガン鉱染により黒褐色する。	60°、幅5~8mmで径1~3mmの礫を含むマンガン脈を挟む。角礫化した破砕割れ目が分布する。基質は砂質土で、マンガン鉱染により黒褐色する。	・角礫化した破砕している部分があり、その岩片は移動や回転をしていないため角礫化は破砕によるものではないと判断して「破砕割れ目」を削除した ・礫を含むマンガン脈であるためその旨の記載に変更した	32.13	32.13	32.13m:傾斜60°、幅5~8mmで径1~3mmの礫を含むマンガン脈を挟む。角礫化した破砕している部分があり、岩片は移動や回転をしていない。
96	32.30	33.10	一部で硬さBの硬質岩片を含んでいる。30~50°割れ目と、これらに斜交~直交する60~80°割れ目が主体。32.86m~80°割れ目の上盤側は、割れ目沿いの砂状化はないが、下盤側の一部の割れ目では、割れ目沿いの一部が風化で薄く砂状化する。粘土化部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00~33.10mの幅が割れ目に厚さ0.5mm以下の粘土フィルムが付着している。	一部で硬さBの硬質岩片を含んでいる。30~50°割れ目と、これらに斜交~直交する60~80°割れ目が主体。32.86m~80°割れ目の上盤側は、割れ目沿いの砂状化はないが、下盤側の一部の割れ目では、割れ目沿いの一部が風化で薄く砂状化する。32.86m、傾斜60°、32.76m、傾斜30°に幅5~15mmのカリ長石の濃集した脈を挟む。粘土化部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00~33.10mの幅が割れ目に厚さ0.5mm以下の粘土フィルムが付着している。	・上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・表現の適正化(扱い) ・カリ長石の濃集した脈は周囲と異なる状況であるため追記した	32.30	33.10	32.30~33.10m:一部で硬さBの硬質岩片を含む。傾斜30~50°の割れ目と、これらに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。32.86mの傾斜80°の割れ目の上盤側は、割れ目沿いの砂状化はないが、下盤側の一部では、割れ目沿いの一部が風化で薄く砂状化する。32.86mに傾斜60°で、32.76mに傾斜30°で幅5~15mmのカリ長石の濃集した脈を挟む。粘土化部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00~33.10mの幅が割れ目に厚さ0.5mm以下のフィルム状の粘土が付着する。
97	33.00	33.10	(割れ目状態欄) bランク (コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Dランク (風化欄) Aランク	(割れ目状態欄) cランク (コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク (風化欄) Bランク	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、風化のランクを変更した	33.00	33.10	(割れ目状態欄) cランク (コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク (風化欄) Bランク
98	33.10	33.65	硬さBと硬質岩片からなり、割れ目の面は一部酸化褐色化するが砂状化は粘土は挟まない。	硬さBと硬質岩片で、割れ目の面は一部酸化褐色化するが砂状化は粘土は挟まない。	・岩片ではないため削除した ・傾斜の修正(は⇒や) ・表現の適正化(挟む)	33.10	33.65	33.10~33.65m:割れ目の面は一部酸化褐色化するが、砂状化や粘土は挟まない。
99	33.24	33.24	75°、幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-		33.24	33.24	33.24m:傾斜75°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。
100	-	-	-	33.29 33.29	傾斜50°、幅3mm程度のカリ長石の脈を挟む。	33.29	33.29	33.29~33.96m:傾斜45~60°で幅2~5mm程度のカリ長石の脈を3条挟む。
101	-	-	-	33.53 33.53	傾斜45°、幅2~4mm程度のカリ長石の脈を挟む。	-	-	・上記でまとめたため書きため記載しない

H24-D1-4 33.65~37.00m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	記事	記事	記事			記事	記事	
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	
			コア観察カードから正しく転記されているか?	追加変更した情報が正しく転記されているか?					
			<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					
102	33.85	37.15	一部、34.00~34.30mで割れ目が多いコア形状Vを呈するが、これ以外にはコア形状IVである。硬さは34.64m以上はの主体、以深はと硬質である。割れ目は30~50° 主体であるが、一部で、これらに斜交~直交する50~60° 割れ目も分布する。また、以上の2系の割れ目と交差する70~90° 割れ目が35.42m付近、36.5m付近などに分布する。各割れ目は34.64m以上は一部は砂状化するが、以深では砂状化しないものが主体である。	33.65	37.15	一部、33.78~34.05mで割れ目が多いコア形状Vを呈するが、これ以外にはコア形状IVである。硬さは34.64m以上はの主体、以深はと硬質である。割れ目は30~50° 主体であるが、一部で、これらに斜交~直交する50~60° 割れ目も分布する。また、以上の2系の割れ目と交差する70~90° 割れ目が35.42m付近、36.50m付近などに分布する。各割れ目は34.64m以上は一部は砂状化するが、以深では砂状化しないものが主体である。 33.75m、傾斜35°、幅20mm程度で柱状した脈を挟む。 33.96m、傾斜60°、幅5mm程度のカリ長石の脈を挟む。	33.65	37.15	33.65~37.15m:34.64m以上ははやや硬質主体、それ以深は硬質である。割れ目は傾斜30~50° が主体であるが、一部でこれらに斜交~直交する50~80° の割れ目も分布する。また、これらの2系統の割れ目と交差する70~80° の割れ目が35.42m付近、36.50m付近などに分布する。34.64m以上は一部は砂状化しているが、それ以深では砂状化しないものが主体である。 33.75mに傾斜35° で幅20mm程度の柱状した脈を挟む。
103	33.78	34.05	(コアの形状欄)IVランク	33.78	34.05	(コアの形状欄)Vランク	33.78	34.05	(コアの形状欄)Vランク
104	34.00	34.00	60°、幅1~5mmの軟質な白色粘土脈が直線的にシャープに連続し、その下盤側は34.22m付近まで風化で軟質化している。	34.00	34.00	60°、幅1~5mmの硬質な白色鉱物脈が直線的にシャープに連続し、その下盤側は34.22m付近まで風化で軟質化している。	34.00	34.00	34.00m:傾斜60° で幅1~5mmの硬質な白色鉱物脈が直線的にシャープに連続する。下盤側34.22m付近まで風化で軟質化する。
105	34.57	34.63	34.57m・45° ~34.63m・65° は細かい割れ目が発達し、全体が軟化(硬さD)、粘土化はないが若干砂状化する。また、マンガン鉱染を受け黒褐色化する。	34.57	34.63	34.57m・45° ~34.63m・65° は細かい割れ目が発達し、全体が軟質化(硬さD)、粘土化はないが若干砂状化する。また、マンガン鉱染を受け黒褐色化する。	34.57	34.63	34.57m・45° ~34.63m・65° 間は細かい割れ目が発達し、全体に硬さDに軟質化する。粘土化はないが、若干砂状化する。マンガン鉱染を受け黒褐色化する。
106	35.40	35.40	40° 周辺は70° 割れ目と交差し、φ20~30mmに細片状するが、岩片は硬く(硬さB)、砂状化や粘土化、粘土脈は伴わない。	35.40	35.40	40° 周辺は70° 割れ目と交差し、φ20~30mmに細片状を呈するが、岩片は硬く(硬さB)、砂状化や粘土化、粘土脈は伴わない。	35.40	35.40	35.40m:傾斜40° の割れ目と70° の割れ目が交差し、径20~30mmに細片状を呈するが、岩片は硬く、砂状化や粘土化、粘土脈は伴わない。
107	35.42	38.95	(変質欄)3ランク	35.42	38.95	(変質欄)2ランク	35.42	38.95	(変質欄)2ランク
108	35.90	35.90	80° 低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土が付着するが、連続性はなく、粘土脈は形成していない。	35.90	35.90	80° 低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土が付着するが、連続性はなく、粘土脈は形成していない。	35.90	35.90	35.90m:傾斜80° の低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土が付着するが、連続性はない。
109	36.30	37.20	75~90° の高角度割れ目で、所々で50° 前後の割れ目で切られている。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈ははさまない。	36.30	37.20	75~90° の高角度割れ目は、所々で50° 前後の割れ目で止められる。切られている。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈は挟まない。	36.30	37.20	36.30~37.20m:傾斜75~90° の高角度割れ目が多く分布し、所々で傾斜50° 前後の割れ目で止められる。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈は挟まない。
110	36.37	36.37	45° のせん断性割れ目で、交差する75~80° 割れ目を切っている(変位量30mm、左ズレ)。割れ目の一部には幅1mmの風化で生じた砂を挟む。	36.37	36.37	45° のせん断性割れ目は、交差する75~80° 割れ目を止めている切っ迫している(変位量30mm、左ズレ)。割れ目の一部には幅1mmの風化で生じた砂を挟むが、粘土は伴わない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	36.37	36.37	36.37m:傾斜45° の割れ目は交差する傾斜75~80° の割れ目を止めている。割れ目の一部には幅1mmで風化による砂を挟むが、粘土は伴わない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
111	36.68	36.68	55° 幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布。38.69mで上位の高角度割れ目に切られるが、変位はない。	36.68	36.68	55° 幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布。38.69mで上位の高角度割れ目を横断する。に切られるが、変位はない。	36.68	36.68	36.68m:傾斜55° で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布し、38.69mで上位の高角度割れ目を横断する。
112	36.80	37.00	75~80° の高角度割れ目中の幅2~4mmの砂はマンガン鉱染により黒褐色化する。	-	-	-	36.80	37.00	36.80~37.00m:傾斜75~80° の高角度割れ目に幅2~4mmでマンガン鉱染により黒褐色化した砂を挟む。

H24-D1-4 37.15~39.50m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
113	37.15	39.60	上位に比べ、割れ目も多くなる。硬さは37.68~38.95m間のBが主体で、その上下位側に硬さCJがないDが分布する。割れ目は40~50°が主体で、これに斜交~直交する60~80°割れ目も分布する。 38.95~39.41mの硬さD区間では、割れ目は消滅したものが多く、割れ目は硬さCJの37.15~37.68m、39.41~39.60mでは粘土化部や粘土層の挟在は殆んどないが、割れ目ぞいに薄く砂状化するものもある。硬さBの37.68~38.95mでは割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。硬さDの38.95~39.41mでは幅1mm前後の灰白色軟弱粘土層を挟在することが多い。	37.15	39.41	上位に比べ、割れ目も多くなる。硬さは37.68~38.95m間のBが主体で、その上下位側に硬さCJがないDが分布する。割れ目は40~50°が主体で、これに斜交~直交する60~80°割れ目も分布する。 38.95~39.41mの硬さD区間では、割れ目は消滅したものが多く、割れ目は硬さCJの37.15~37.68m、39.41~39.60mでは粘土化部や粘土層の挟在は殆んどないが、割れ目ぞいに薄く砂状化するものもある。硬さBの37.68~38.95mでは割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。硬さDの38.95~39.41mでは幅1mm前後の灰白色軟弱粘土層を挟在することが多い。	・割れ目が多い区間(コア形状V主体)の記載のため下端深度を変更した(39.41m以降はコア形状IV) ・表現の適正化(治い、軟弱⇒軟質) ・下端深度を変更したため区間外の記載は削除した	37.15	39.41	37.15~39.41m:上位に比べ割れ目が多く、傾斜40~50°が主体で、これに斜交~直交する60~80°の割れ目も分布する。37.15~37.68m間では粘土化部や粘土層の挟在は殆んどないが、割れ目ぞいに薄く砂状化するものもある。37.68~38.95m間では割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。38.95~39.41m間では割れ目が消滅することが多い。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない 灰白色粘土の挟在については下記に具体的に記載した
114	37.18	37.68	マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色(7.5YR 5/1)を呈する。	37.18	37.68	マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色(7.5YR 5/1)を呈する。	・コアに合わせてマンガン鉱染を受けている上端深度を変更した	37.18	37.68	37.15~37.68m:マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色を呈する。	-
115	37.18	37.68	(色調欄)7.5YR6/2褐灰	37.18	37.68	(色調欄)7.5YR5/1褐灰	・コアに合わせて色調を変更した	37.18	37.68	(色調欄)褐灰	-
116	37.68	37.89	(コアの形状欄)Vランク	37.68	37.89	(コアの形状欄)IVランク	・周囲に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	37.68	37.89	(コアの形状欄)IVランク	-
117	38.01	38.12	(コアの形状欄)Vランク	38.01	38.12	(コアの形状欄)IVランク	・周囲に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	38.01	38.12	(コアの形状欄)IVランク	-
118	38.12	38.20	割れ目ぞいに褐色化するが、岩片は硬さBで劣化していない。	38.12	38.20	割れ目ぞいに褐色化するが、岩片は硬さBで劣化していない。	・表現の適正化(治い)	38.12	38.20	38.12~38.20m:割れ目ぞいに褐色化するが、岩片は劣化していない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
119	38.23	38.95	(コアの形状欄)Vランク	38.23	38.95	(コアの形状欄)IVランク	・周囲に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	38.23	38.95	(コアの形状欄)IVランク	-
120	38.95	39.41	風化と変質で軟質化している。特に最下位側の39.34~39.41mは、上端25°、下端30°で囲まれた灰白~にぶい橙色の軟弱な粘土層が20~30°、60~65°、幅1~4mmで多く分布する。	38.95	39.41	風化と変質で軟質化している。特に最下位側の39.34~39.41mは、上端25°、下端30°で囲まれた灰白~にぶい橙色の軟弱な粘土層が20~30°、60~65°、幅1~4mmで多く分布する。	・表現の適正化(軟質化、軟弱⇒軟質)	38.95	39.41	38.95~39.41m:風化と変質で軟質化する。上端25°、下端30°で囲まれた39.34~39.41mの区間は、傾斜20~30°や60~65°で幅1~4mmの灰白~にぶい橙色の軟弱な粘土層が多く分布する。	-
121	38.95	39.41	(岩級区分欄)CL	38.95	39.41	(岩級区分欄)CM	・39.41~40.00mの割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクの変更に伴い、岩級もCMに変更されたことにより、本区間長が50cm未満になったため周囲の岩級に含めた	38.95	39.41	(岩級区分欄)CMに含める	-
122	39.41	39.60	硬さBも含んでおり、硬質でほぼ未風化、未変質である。	39.41	39.60	硬さBも含んでおり、硬質でほぼ未風化、未変質である。	・深度39.60~39.90mの記事と併せて記載したため削除した	-	-	-	-
123	39.41	40.21	(割れ目状態欄)cランク	39.41	40.21	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	39.41	40.21	(割れ目状態欄)bランク	-
124	39.41	39.60	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Cランク	39.41	39.60	(コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク	・上位に比べて割れ目が少なく、コアの硬さも硬質なためコアの形状、コアの硬さのランクを変更した	39.41	39.60	(コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク	-
125	39.41	40.00	(岩級区分欄)CL	39.41	40.00	(岩級区分欄)CM	・上記の変更に伴い、岩級を変更した	39.41	40.00	(岩級区分欄)CM	-
126	39.50	39.50	20°、幅2~4mmの石英脈が母岩に密着して分布。	39.50	39.50	20°、幅2~4mmの白色変質脈が分布。	・花崗岩の白色変質脈であるため変更した	39.50	39.50	39.50m:傾斜20°で幅2~4mmの白色変質脈を挟む。	-

H24-D1-4 39.41~41.62m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事	上端深度		下端深度
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
127	39.60	39.90	硬さBで上位のBよりも割れ目が少なくなる。ほぼ未風化。未変質で堅硬である。	39.41	40.00	硬さBで上位のBよりも割れ目が少なくなる。ほぼ未風化。未変質で堅硬である。		39.41	40.00	39.41~40.00m:上位より割れ目が少なくなる。ほぼ未風化、未変質で堅硬である。
128	39.90	40.68	40~50° 割れ目がほぼ平行に分布する。風化で割れ目の一部が薄く砂状化する。また、幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土脈をはさまりが、分布は少ない。	40.00	40.68	40~50° 割れ目がほぼ平行に分布する。風化で割れ目の一部が薄く砂状化する。また、幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土脈を挟むが、分布は少ない。	・40~50°の割れ目が平行に分布する区間の上端深度を変更した ・表現の適正化(ほぼ、軟弱⇒軟質、挟む)	40.00	40.68	40.00~40.68m:傾斜40~50°の割れ目がほぼ平行に分布する。風化で割れ目の一部が薄く砂状化する。幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土脈を挟むが、分布は少ない。
129	39.90	40.00	(コアの形状欄)Ⅴランク	39.90	40.00	(コアの形状欄)Ⅴランク	・上位と同程度の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをⅤランクに変更した	39.90	40.00	(コアの形状欄)Ⅴランク
130	39.90	40.21	(コアの硬さ欄)Cランク	39.90	40.21	(コアの硬さ欄)Bランク	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	39.90	40.21	(コアの硬さ欄)Bランク
131	20.24	20.28	20.24m・40° ~ 20.28m・45° 割れ目に囲まれて、やや軟化する。上端割れ目はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に砂状~粘土化は伴わない。	40.24	40.28	40.24m・40° ~ 40.28m・45° 割れ目に囲まれて、やや軟化する。上端割れ目はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に砂状~粘土化は伴わない。	・崩裂の修正(20.24m, 20.28m⇒40.24m, 40.28m) ・表現の適正化(やや、軟質化、伴う)	40.24	40.28	40.24m・40° ~ 40.28m・45°の割れ目に囲まれて、やや軟質化する。上端側はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に砂状~粘土化は伴わない。
132	40.44	40.68	(割れ目状態欄)cランク	40.44	40.68	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	40.44	40.68	(割れ目状態欄)bランク
133	40.50	-	40.50m以深では硬さBと堅硬部も混える。	-	-	-		-	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
134	40.50	40.68	(コアの硬さ欄)Cランク	40.50	40.68	(コアの硬さ欄)Bランク	・コアは硬質なためコアの硬さのランクをBランクに変更した	40.50	40.68	(コアの硬さ欄)Bランク
135	40.68	41.20	硬さBと堅硬であるが、41.20mでは75~80°の高角度割れ目を境として硬さ「D」の軟質部と接する。高角度割れ目は、41.00~41.53mまでやや湾曲しながら連続している。幅5~10mm程度の砂状~φ3~5mm程度の破砕塊状を呈している。割れ目は20~30°が主体であるが、分布は少ない。ただし、20~30°と70°前後の低密着割れ目も分布し、コア形状Ⅳとする。割れ目の挟在物はない。	40.68	41.20	硬さBと堅硬であるが、41.20mでは75~80°の高角度割れ目を境として硬さ「D」の軟質部と接する。高角度割れ目は、41.00~41.53mまでやや湾曲しながら連続している。幅5~10mm程度の砂状~φ3~5mm程度の破砕塊状を呈している。硬さDの部に移動や回転は見られない。割れ目は20~30°が主体であるが、分布は少ない。ただし、20~30°と70°前後の低密着割れ目も分布し、コア形状Ⅳとする。割れ目の挟在物はない。	・硬さを呈する部分の部に移動や回転は見られないため「破砕」を削除した ・表現の適正化(やや、ただし)	40.68	41.62	40.68~41.62m:傾斜75~85°の高角度割れ目が41.00~41.53mの間でやや湾曲しながら連続する。幅5~10mm程度の砂状~径3~5mm程度の塊状を呈する。塊状部の部に移動や回転は見られない。高角度割れ目に囲まれた区間は全体に軟質化し、高角度割れ目の一部には幅0.5mmの軟弱な灰白色粘土がわずかに付着する。高角度割れ目と斜交~直交する割れ目は傾斜20~50°が主体で、傾斜70°前後の低密着割れ目も分布する。割れ目沿いの一部は薄く砂状化するが、粘土部や粘土脈は殆んど分布しない。
136	-	-	-	40.95	40.95	傾斜45°、幅2mm程度の石英脈を挟む。白雲母が晶出する。	・石英脈、白雲母の晶出は周囲と異なる状況であるため追記した	40.95	40.95	40.95m:傾斜45°で幅2mm程度の石英脈を挟む。白雲母が晶出する。
137	41.20	41.62	上端75~80°、下端80~85°の高角度割れ目に囲まれて、全体に軟化している。高角度割れ目と斜交~直交する20~50°割れ目が主体で、割れ目沿いの一部は薄く砂状化するが、粘土部や粘土脈は殆んど分布せず。高角度割れ目の一部に幅0.5mmの灰白色軟弱粘土がわずかに付着する程度である。	41.20	41.62	上端75~80°、下端80~85°の高角度割れ目に囲まれて、全体に軟質化している。高角度割れ目と斜交~直交する20~50°割れ目が主体で、割れ目沿いの一部は薄く砂状化するが、粘土部や粘土脈は殆んど分布せず。高角度割れ目の一部に幅0.5mmの灰白色軟弱粘土がわずかに付着する程度である。	・表現の適正化(軟質化、沿い、軟弱⇒軟質)	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
138	41.52	41.62	40°と85°割れ目に囲まれて、φ5~10mmの角礫に破砕されて、結った砂質土の基質中にマンガン鉱染が認められる。	41.52	41.62	40°と85°割れ目に囲まれて、φ5~10mmの角礫に破砕されて、硬質な砂状質土の基質中にマンガン鉱染が認められる。割れ目や角礫には挟在物が付着していない。角礫状態は連続していない。	・角礫状を呈する部分の礫には細粒物が付着せず、割れ目にも挟在物が見られないため掘削時のコアの擾乱部であると判断して「破砕」を削除した ・角礫状の連続性について追記した ・表現の適正化(結った⇒硬質、砂質土⇒砂状)	41.52	41.62	41.52~41.62m:傾斜40°と85°の割れ目に囲まれて、径5~10mmの角礫状を呈する。硬質な砂状の基質中にマンガン鉱染が認められる。割れ目や角礫には挟在物が付着せず、角礫状態は連続しない。

H24-D1-4 41.62~44.67m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
	記事	記事	記事	記事		記事	記事			
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度			
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
139	41.62	42.37	硬さBと硬質で、割れ目もやや少なくなる。40~50°割れ目が主体。また、40~50°と80°前後の低密着割れ目が多い。割れ目、低密着割れ目には砂状化、粘土脈などの挟在物はない。ただし、42.03mなどでは55°割れ目ぞいの一部がφ3~5mmで硬質細片化している。	41.62	42.37	硬さBと硬質で、割れ目もやや少なくなる。40~50°割れ目が主体。また、40~50°と80°前後の低密着割れ目が多い。割れ目、低密着割れ目には砂状化、粘土脈などの挟在物はない。ただし、42.03mなどでは55°割れ目ぞいの一部がφ3~5mmで硬質細片化している。	41.62	42.37	41.62~42.37m:傾斜40~50°の割れ目が主体で、傾斜40~50°と80°前後の低密着割れ目も多い。割れ目、低密着割れ目には砂状化、粘土脈などの挟在物はない。42.03mなどでは傾斜55°の割れ目ぞいの一部が径3~5mmで硬質細片化する。	記事欄以外から読み取れる硬さや割れ目の多寡の情報は記載しない
140	41.92	41.92	40°幅3~5mm石英脈が母岩に密着して連続。脈の周辺にφ0.1mmの金属鉱物が晶出。	-	-	-	41.92	41.92	41.92m:傾斜40°で幅6~8mmの石英脈が母岩に密着して連続する。脈の周辺にφ0.1mmの金属鉱物が晶出する。	-
141	42.37	42.61	低密着割れ目が細かい網状で分布し、打撃で分離し易い。42.37~42.46mは割れ目が約10mm間隔で交差し、岩片もφ10mm前後に細片化している。岩片間に軟質で白色の粘土がこくわずかに付着している。	42.37	42.61	低密着割れ目が細かい網状で分布し、打撃で分離し易い。42.37~42.46mは割れ目が約10mm間隔で交差し、岩片もφ10mm前後に細片化している。岩片間に軟質で白色の粘土がこくわずかに付着している。	42.37	42.61	42.37~42.61m:低密着割れ目が細かい網状で分布し、打撃で分離し易い。42.37~42.46mは割れ目が約10mm間隔で交差し、岩片も径10mm前後に細片化する。岩片間に軟質の白色粘土がこくわずかに付着する。	-
142	42.43	42.43	60°割れ目はせん断性割れ目で、面上に条線が認められる	42.43	42.43	60°割れ目は、交差する42.38mの緑色化する割れ目を見かけ2mm程度左ズレに変位させているせん断性割れ目で、面上に条線が認められる。割れ目の挟在物不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	42.43	42.43	42.43m:傾斜60°の割れ目は、交差する42.38mの緑色化する割れ目を見かけ2mm程度左ズレに変位させている。割れ目面に条線が認められる。割れ目の挟在物不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
143	42.61	43.34	30~50°割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。硬質で、割れ目は薄く酸化褐色化するが、砂、粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染受け黒褐色化するが、劣化は伴わない。	42.61	43.34	30~50°割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。硬質で、割れ目は薄く酸化褐色化するが、砂、粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染受け黒褐色化するが、劣化は伴わない。	42.61	43.34	42.61~43.34m:傾斜30~50°の割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。割れ目は薄く酸化褐色化するが、砂、粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化するが、劣化は伴わない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
144	43.39	43.39	55°幅3~4mm石英脈が母岩に密着して連続する。	43.29	43.29	55°幅3~4mm石英脈が母岩に密着して連続する。	43.29	43.29	43.29m:傾斜55°で幅3~4mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-
145	43.34	45.00	岩片自身は硬さBが多いが、低密着割れ目が細かく分布し、全体として硬さ「C」を呈する。割れ目は50~70°と、これに斜交~直交する30~60°が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1~2mmの軟質な白色粘土脈をはさむものもある。	43.34	45.00	岩片自身は硬さBが多いが、低密着割れ目が細かく分布し、全体として硬さ「C」を呈する。割れ目は50~70°と、これに斜交~直交する30~60°が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1~2mmの軟質な白色粘土脈をはさむものもある。	43.34	45.00	43.34~45.00m:岩片は硬いが、低密着割れ目が細かく分布する。割れ目は傾斜50~70°と、これに斜交~直交する30~60°が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1~2mmの軟質な白色粘土脈をはさむものもある。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
146	43.34	43.34	55°割れ目幅2mmで砂状化し、一部でφ1mmの雲母片が晶出している。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。本割れ目10m下位の43.35mには、本割れ目と平行に幅3~5mmの石英脈が連続する。	43.34	43.34	55°割れ目幅2mmで砂状化し、一部でφ1mmの雲母片が晶出している。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。本割れ目10m下位の43.35mには、本割れ目と平行に幅3~5mmの石英脈が連続する。	43.34	43.35	43.34m:傾斜55°の割れ目沿いが幅2mmで砂状化し、一部で径1mmの白雲母が晶出する。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。43.35m:上記の割れ目と平行に幅3~5mmの石英脈が連続する。	-
147	43.34	44.40	(割れ目状態欄)hランク	43.34	44.40	(割れ目状態欄)hランク	43.34	44.40	(割れ目状態欄)hランク	-
148	44.67	44.67	65°割れ目はせん断性割れ目で、交差する60°割れ目を切って、やや波打ちながら連続する(変位量5mm左ズレ)。	44.67	44.67	65°割れ目はせん断性割れ目で、交差する60°割れ目を切って、やや波打ちながら連続する(変位量5mm左ズレ)。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	44.67	44.67	44.67m:傾斜65°の割れ目は、交差する60°の割れ目を止めて、やや波打ちながら連続する。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-

H24-D1-4 44.83~47.67m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度		記事
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
149	44.83	44.83	60° 割れ目の一部に幅1~2mmの軟弱白色粘土が付着。粘土脈としての連続性はない。	60° 割れ目の一部に幅1~2mmの軟弱白色粘土が付着。 粘土脈としての連続性はない。	・表現の統一(軟弱⇒軟質) ・文章の適正化(一部に付着と粘土脈としての連続性はないことは同義であるため削除した)	44.83	44.83	44.83m:傾斜60°の割れ目の一部に幅1~2mmの軟弱白色粘土が付着する。	
150	44.83	45.15	(割れ目状態欄)○ランク	(割れ目状態欄)○ランク	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクを○ランクに変更した	44.83	45.15	(割れ目状態欄)○ランク	
151	45.00	45.45	60~70° 割れ目。低密着割れ目が主体で、これらに斜交~直交する40~60° 割れ目。低密着割れ目が分布する。一部の割れ目でごく薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。各割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	60~70° 割れ目。低密着割れ目が主体で、これらに斜交~直交する40~60° 割れ目。低密着割れ目が分布する。一部の割れ目でごく薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。各割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	・表現の適正化(挟む)	45.00	45.45	45.00~45.45m:傾斜60~70°の割れ目。低密着割れ目が主体で、これらに斜交~直交する40~60°の割れ目。低密着割れ目が分布する。一部の割れ目はごく薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	
152	45.15	45.45	(コアの形状欄)▽ランク	(コアの形状欄)▽ランク	・上位に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクを▽ランクに変更した	45.15	45.45	(コアの形状欄)▽ランク	
153	45.24	45.24	45° 幅2~18mmと膨縮して連続するが、母岩に対し、上盤側の一部は割れ目化、下盤側は密着する。	45° 幅2~18mmと膨縮して石英脈が連続するが、母岩に対し、上盤側の一部は割れ目化、下盤側は密着する。	・傾斜の修正(「石英脈」の記載漏れ) ・上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・文章の適正化(「母岩に対し」は特に記載する必要がないため削除した)	45.24	45.24	45.24m:傾斜45°で幅2~18mmと膨縮した石英脈が連続する。上盤側の一部は割れ目化、下盤側は密着する。	
154	45.45	46.06	70~80°とこれに斜交~直交する40~60° 割れ目。低密着割れ目が主体。特に低密着割れ目が多く、約10~30mm間隔で分布している。堅硬な硬さBからなり、割れ目には挟在物は殆んど分布しない。	-		45.45	46.06	45.45~46.06m:傾斜70~80°とこれに斜交~直交する40~60°の割れ目。低密着割れ目が主体で、特に低密着割れ目が多く、約10~30mm間隔で分布する。割れ目には挟在物は殆んど分布しない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
155	45.81	45.81	45° 割れ目はせん断性割れ目で、直交する70° 割れ目を切っている(変位量4mm左ズレ)。	45° 割れ目のせん断性割れ目は、直交する70° 割れ目で横断される。を切っている(変位量4mm左ズレ)。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・70° 割れ目は45° 割れ目でわずかにズレるようにみえるが、コア収縮時にズレた人為的なものであるため「切っている」を「横断している」に変更し、変位量の記載を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	45.81	45.81	45.81m:傾斜45°の割れ目は、直交する傾斜70°の割れ目で横断される。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
156	46.06	46.31	上位から続く硬さBで塊状(Ⅲ)。互いに直交する50°前後の割れ目からなる。割れ目には挟在物はない。	上位から続く硬さBで塊状(Ⅲ)。互いに直交する50°前後の割れ目が分布する。割れ目には挟在物はない。	・文章の適正化(割れ目からなる⇒割れ目が分布する)	46.06	46.31	46.06~46.31m:互いに直交する傾斜50°前後の割れ目が分布する。割れ目に挟在物は伴わない。	・記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状の情報は記載しない
157	46.31	46.67	40~50° 割れ目。低密着割れ目が約10mm間隔と細かく平行に分布し、一部で薄く砂状化する。岩片は硬さBも含むが全体に○主体	-		46.31	46.67	46.31~46.67m:傾斜40~50°の割れ目。低密着割れ目が約10mm間隔と細かく平行に分布し、一部で薄く砂状化する。一部の岩片は硬質であるが、全体にやや硬質である。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
158	46.31	46.53	(風化欄)○ランク	(風化欄)▽ランク	・風化の程度がやや弱いため風化のランクを▽ランクに変更した	46.31	46.53	(風化欄)▽ランク	
159	46.67	47.48	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。46.45~47.00mに85°の低密着割れ目が分布する。割れ目。低密着割れ目とも挟在物はない。	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。46.85~47.00mに85°の低密着割れ目が分布する。割れ目。低密着割れ目とも挟在物はない。	・高角度の低密着割れ目の分布に合わせて上端深度を変更した	46.67	47.48	46.67~47.48m:割れ目。低密着割れ目とも挟在物はない。46.85~47.00mに傾斜85°の低密着割れ目が分布する。	・記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状の情報は記載しない
160	47.48	47.67	岩片はBと堅硬であるが、60~85°の低密着割れ目が分布し細片化する。	-		47.48	47.67	47.48~47.67m:傾斜60~85°の低密着割れ目が分布し細片化する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない

H24-D1-4 47.67~51.80m

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)
	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	
				記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
				記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
161	47.67	48.52	40~50° 割れ目主体で平行に分布。48.17m以浅は風化で割れ目ぞいの一部は砂状化する。以深は風化が弱くなり砂状化しない。また、粘土脈は殆んどはさまない。	47.67	48.52	40~50° 割れ目主体で平行に分布。48.17m以浅は風化で割れ目ぞいの一部は砂状化する。以深は風化が弱くなり砂状化しない。また、粘土脈は殆んどはさまない。	・表現の適正化(扱い、挟む)	47.67	48.84	47.67~48.84m:傾斜40~50° の割れ目が平行に分布し、傾斜40~50° ないし60~70° の低密着割れ目も分布する。48.17m以浅は風化で割れ目ぞいの一部は砂状化する。砂や粘土脈は殆んど挟まない。
162	48.17	48.17	50° 割れ目に幅5~7mmの風化した明褐色(7.5YR 5/6)の砂をほさむ。両側幅5~10mmは淡緑灰色化(緑泥石化)する。φ0.1mmの微細な雲母が晶出する。	48.17	48.17	50° 割れ目に幅5~7mmの風化した明褐色(7.5YR 5/6)の砂を挟む。両側幅5~10mmは淡緑灰色化(緑泥石化)する。φ0.1mmの微細な白雲母が晶出する。	・表現の適正化(挟む) ・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母)	48.17	48.17	48.17m:傾斜50° で幅5~7mmの風化した明褐色の砂を挟む。両側幅5~10mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.1mmの微細な白雲母が晶出する。
163	48.42	49.17	(割れ目状態欄)○ランク	48.42	49.17	(割れ目状態欄)○ランク	・挟む物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクを○ランクに変更した	48.42	49.17	(割れ目状態欄)○ランク
164	48.84	49.17	(コアの形状欄)▽ランク	48.84	49.17	(コアの形状欄)▽ランク	・下位より割れ目が少ないためコアの形状のランクを▽ランクに変更した	48.84	49.17	(コアの形状欄)▽ランク
165	48.42	49.17	(岩級区分欄)CL	48.42	49.17	(岩級区分欄)CM	・上記の変更に伴い、岩級を変更した	48.42	49.17	(岩級区分欄)CM
166	48.52	48.84	上位と同様。40~50° 割れ目が平行に分布。低密着割れ目は40~50° ないし60~70° で分布。両者とも砂。粘土脈ははさまない。	48.52	48.84	上位と同様。40~50° 割れ目が平行に分布。低密着割れ目は40~50° ないし60~70° で分布。両者とも砂。粘土脈ははさまない。	・表現の適正化(挟む)	-	-	-
167	48.84	49.83	40~50° 割れ目。低密着割れ目主体で、49.17m以深では風化が進み、割れ目ぞいが砂状化することが多い。また、一部の割れ目。低密着割れ目で幅0.5mmの軟弱な白~明黄褐色粘土脈をほさむ。	48.84	49.83	40~50° 割れ目。低密着割れ目主体で、49.17m以深では風化が進み、割れ目ぞいが砂状化することが多い。また、一部の割れ目。低密着割れ目で幅0.5mmの軟弱な白~明黄褐色粘土脈を挟む。	・表現の適正化(扱い、軟弱⇒軟質、挟む) ・損記の修正(「色」の記載漏れ)	48.84	49.83	48.84~49.83m:傾斜40~50° の割れ目。低密着割れ目が主体で、49.17m以深では割れ目ぞいに砂状化することが多い。一部の割れ目。低密着割れ目で幅0.5mmの軟弱な白~明黄褐色の粘土脈を挟む。
168	49.83	52.07	硬さBと堅硬で20~40° の割れ目が主体である。上端側の49.83~50.04mと50.24~50.32mは緑灰色(7.5GY 5/1)化する(緑泥石化)。粘土化部や粘土脈は伴わないが、緑色化部下盤側の50.04~50.11mは若干風化し、割れ目の一部にごく薄い風化砂をほさむ。緑灰色部は主として割れ目方向と調和的に分布している。	49.83	52.07	硬さBと堅硬で20~40° の割れ目が主体である。上端側の49.83~50.03mと50.24~50.32mは緑灰色(7.5GY 5/1)化する(緑泥石化)。粘土化部や粘土脈は伴わないが、緑色化部下盤側の50.03~50.11mは若干風化し、割れ目の一部にごく薄い風化砂を挟む。緑灰色部は主として割れ目方向と調和的に分布している。	・コアに合わせて深度を変更した(50.04⇒50.03) ・表現の適正化(伴う、挟む) ・下端側が必ずしも下盤とは限らないため下端に変更した。	49.83	52.07	49.83~52.07m:傾斜20~40° の割れ目が主体で、一部緑泥石化により緑灰色化する。緑灰色部は割れ目方向と調和的に分布する。粘土化部や粘土脈は伴わない。50.03~50.11m間は若干風化し、割れ目の一部にごく薄い砂を挟む。
169	49.83	50.00	(色調欄)7.5YR5/2灰褐	49.83	50.00	(色調欄)7.5GY5/1緑灰	・コアに合わせて色調を変更した	49.83	50.00	(色調欄)緑灰
170	50.81	50.81	40° はせん断性割れ目で、交差する55° 割れ目を切っている(変位量10mmを差す)	50.81	50.81	40° のせん断性割れ目は、交差する55° 割れ目を切っている。切っ端から変位量10mmを差す。割れ目には挟む物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・変位基準とした55° の割れ目は、40° の割れ目と交差する箇所の上端側と下端側の傾斜が異なりズレに見えるが、コアの中心部では1枚の面を形成してそこではズレが見られないため「切っ端」を「止めている」に変更し、変位量の記載を削除した ・割れ目及び周辺の状態について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	50.81	50.81	50.81m:傾斜40° の割れ目は、交差する55° の割れ目を止めている。割れ目には挟む物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
171	51.30	51.33	51.30m・38°、51.33m・47° の各割れ目にφ0.1mmと微細な金属鉱物(黄鉄鉱)が晶出している。	-	-	-		51.30	51.33	51.30m、51.33m:傾斜38°、47° の各割れ目に径0.1mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。
172	51.44	51.56	割れ目ぞいにも風化進む。	51.44	51.56	割れ目ぞいにも風化進む。	・割れ目ぞいの風化は認められないため削除した	-	-	-
173	51.44	51.56	(風化欄)○ランク	51.44	51.56	(風化欄)▽ランク	・周囲と同様の風化の程度であるため風化のランクを▽ランクに変更した	51.44	51.56	(風化欄)▽ランク
174	51.80	51.80	25° 割れ目に方解石と推定される白色鉱物が割れ目の一部に幅1mmの脈状に分布。	51.80	51.80	25° 割れ目に白色鉱物が割れ目の一部に幅1mmの脈状に分布。	・方解石ではないため削除した	51.80	51.80	51.80m:傾斜25° で幅1mmの白色鉱物が不連続に脈状に分布する。

H24-D1-4 53.46~57.75m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度		選定した記事内容
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
187	52.46	53.68	軟しく軟化する。53.55m・55°、53.67m・70°の各割れ目に各々幅1mm、2~4mmの軟弱な緑灰色(7.5GY 5/1)粘土脈をはさむ。	軟しく軟化する。53.55m・55°、53.67m・70°の各割れ目に各々幅1mm、幅2~4mmの軟弱な緑灰色(7.5GY 5/1)粘土脈を挟む。	・掘削の修正(52.46⇒53.46、軟しく⇒滑しく、「幅」の記載漏れ) ・表現の適正化(軟質化、軟弱⇒軟質、挟む)	53.46	53.68	53.46~53.68m:軟しく軟質化する。53.55m・55°、53.67m・70°の各割れ目に各々幅1mm、幅2~4mmの軟弱な緑灰色粘土脈を挟む。	
188	53.68	56.54	区間中央部の54.44~54.64mと54.98~55.41mは硬さDで、その上・下が硬さDで、コア形状は全区間でVとをクラッキーである。割れ目は30~40°とこれらに斜交~直交する60~80°割れ目と低密着割れ目が主体である。					53.68~56.54m:傾斜30~40°とこれらに斜交~直交する60~80°の割れ目と低密着割れ目が細かく分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない
189	-	-		傾斜20°、幅1~2mmの白色鉱物脈を挟み、その下に幅10mmでかり長石が濃集した脈を伴う。	・白色鉱物脈、かり長石が濃集した脈は周囲と異なる状況であるため追記した	53.89	53.89	53.89m:傾斜20°で幅1~2mmの白色鉱物脈を挟み、その下に幅10mmでかり長石が濃集した脈を伴う。	
190	55.41	-	55.41m以深では割れ目沿いに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質~やや硬質な白色粘土が付着することがある。粘土脈としては連続しない。	55.41m以深では割れ目沿いに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質~やや硬質な白色粘土が付着することがある。粘土脈としては連続しない。	・表現の適正化(扱い、軟弱⇒軟質、やや) ・表現の統一(固結⇒硬質)	55.41	-	55.41m以深では割れ目沿いに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質~やや硬質な白色粘土が付着するが、粘土脈としては連続しない。	
191	54.44	54.44	70°幅3~8mmで方解石脈が分布。上壁側境界は割れ目化する。下壁は母岩に密着しており、54.44mで65°せん断性割れ目に切られる。(変位量3mmを認めない) 65°はせん断性割れ目、上壁の方解石脈を切っている(変位量3mmを認めない)	70°幅3~8mmで方解石脈が分布。上壁側境界は割れ目化する。下壁は母岩に密着しており、54.44mで65°せん断性割れ目を横断する。に切られる(変位量3mmを認めない) 65°のせん断性割れ目は、上壁の方解石脈に横断される。を切っている(変位量3mmを認めない)割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・上壁側が必ずしも上壁とは限らないため上壁に変更した。下壁も同様。 ・方解石脈がズレているように見えるが、コア採取時にズレた人為的なものであるため「切られる」を「横断する」に変更し、変位量の記載を削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	54.44	54.44	54.44m:傾斜70°で幅3~8mmの方解石脈を挟む。上壁側境界は割れ目化する。下壁は母岩に密着しており、54.44mで傾斜65°の割れ目を横断し、割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
192	54.44	54.64	割れ目沿いに砂状化と5mm~10mmに細片化する。	割れ目沿いに砂状化と5mm~10mmに細片化する。	・表現の適正化(扱い、mmの削除)	54.44	54.64	54.44~54.64m:割れ目沿いに砂状化と径5~10mmに細片化する。	
193	54.44	54.64	(風化欄)3ランク (変質欄)2ランク	(風化欄)3ランク (変質欄)3ランク	・風化の程度がやや弱く、変質の程度がやや強いため風化、変質のランクを変更した	54.44	54.64	(風化欄)3ランク (変質欄)3ランク	
194	54.98	55.41	(風化欄)3ランク	(風化欄)3ランク	・風化の程度がやや弱いため風化のランクを3ランクに変更した	54.98	55.41	(風化欄)3ランク	
195	54.98	55.00	(変質欄)2ランク	(変質欄)3ランク	・変質の程度がやや強いため変質のランクを3ランクに変更した	54.98	55.00	(変質欄)3ランク	
196	-	-		傾斜95°、幅1mmの暗灰色粘土を挟む。	・暗灰色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	55.07	55.07	55.07m:傾斜95°で幅1mmの暗灰色粘土を挟む。	
197	55.41	55.41	55°はせん断性割れ目、上壁側の20°割れ目、下壁側の80°割れ目のいずれもが切られている(変位量不明)。	55°のせん断性割れ目、上壁側の20°割れ目、下壁側の80°割れ目のいずれもが切られている。切られている(変位量不明)割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・上壁側が必ずしも上壁とは限らないため上壁に変更した。下壁も同様。 ・せん断性割れ目としたものは途中でせん断しているため、せん断性割れ目ではないと判断して「切られる」を「止まっている」に変更し、変位量の記載を削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	55.41	55.41	55.41m:傾斜55°の割れ目で、上壁側の20°の割れ目、下壁側の80°の割れ目が止まっている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
198	-	-		傾斜60°、幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0~3mmの不連続な方解石脈を挟む。	・暗灰色粘土、方解石脈は周囲と異なる状況であるため追記した	55.80	55.80	55.80m:傾斜60°で幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0~3mmの不連続な方解石脈を挟む。	
199	56.18	56.23	56.18m・50°~56.23m・50°の各割れ目に囲まれてやや軟化する	56.18m・50°~56.23m・50°の各割れ目に囲まれてやや軟化する	・表現の適正化(やや、軟質化)	56.18	56.23	56.18m・50°~56.23m・50°の割れ目に囲まれてやや軟質化する。	
200	56.54	56.57	上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープであるが、浅部側延長部で90~70°で大きく湾曲。下端は1箇所屈曲してシャープに連続する。0.1mm前後の石英粒と5~10mmの粘土化した岩片を多く含む軟弱な白色の硬質粘土で全体の色調は灰白(7.5YR 8/1)~明褐色(7.5YR 7/2)で、ただし横断する。厚さは10~15mmで、粘土脈浅部側の56.52m付近で粘土脈は2つに枝分かれする。	変質部 上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープであるが、浅部側延長部で90~70°で大きく湾曲。下端は1箇所屈曲してシャープに連続する。0.1mm前後の石英粒と5~10mmの粘土化した岩片を多く含む軟弱な白色の硬質粘土で全体の色調は灰白(7.5YR 8/1)~明褐色(7.5YR 7/2)で、ただし横断する。厚さは10~15mmで、粘土脈浅部側の56.52m付近で粘土脈は2つに枝分かれする。	・変質部であるため「変質部」と追記した。 ・表現の適正化(箇所、軟弱⇒軟質、枝別れ⇒枝分かれ) ・横断するであるため変質部内物質を変更した。 ・掘削の修正(「色」の記載漏れ)	56.54	56.57	56.54~56.57m:変質部 上端60°で直線的にシャープであるが、浅部側延長部で90~70°で大きく湾曲。下端60°で1箇所屈曲してシャープに連続する。0.1mm前後の石英粒と5~10mmの粘土化した岩片を多く含む。軟弱な白色の硬質粘土で全体の色調は灰白~明褐色で縦横を呈する。幅10~15mmで、浅部側の56.52m付近で挟在する粘土脈は2つに分岐する。	
201	56.77	57.63	硬さBで硬質である。50~60°とこれと斜交~直交する20~60°割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同角の低密着割れ目も分布する。	硬さBで硬質である。50~60°とこれと斜交~直交する20~60°割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同角の低密着割れ目も分布する。	・掘削の修正(56.77⇒56.57) ・表現の適正化(両角⇒同角度)	56.57	57.63	56.57~57.63m:傾斜50~60°とこれと斜交~直交する20~60°の割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同傾斜の低密着割れ目も分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
202	57.63	57.75	50~60°割れ目、低密着割れ目が5~10mm間隔で平行に分布し軟化する。	50~60°割れ目、低密着割れ目が5~10mm間隔で平行に分布し軟化する。	・表現の適正化(軟質化)	57.63	57.75	57.63~57.75m:傾斜50~60°の割れ目、低密着割れ目が5~10mm間隔で平行に分布し軟化する。	

H24-D1-4 57.75~60.06m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)		
	記事	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		記事内容	記事内容			
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度			
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
203	57.75	58.37	硬さBで堅硬である。割れ目そのものはわずかであるが、58.00~58.15mを中心に40~50°の低密着割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。また、57.90~57.37mに80~90°割れ目が連続し、他割れ目との交差部の一部はφ3~5mmに細片化する。	57.75	58.37	硬さBで堅硬である。割れ目そのものはわずかであるが、58.00~58.15mを中心に40~50°の低密着割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。また、57.90~58.37mに80~90°割れ目が連続し、他割れ目との交差部の一部はφ3~5mmに細片化する。	57.75	58.37	57.75~58.37m: 割れ目は少ないが、主に58.00~58.15m間に傾斜40~50°の低密着割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。57.90~58.37m間に傾斜60~90°の割れ目が連続し、他の割れ目との交差部の一部は径3~5mmに細片化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
204	58.37	58.85	岩片は硬さBで堅硬であるが、20~30°割れ目と80~90°割れ目が交差し、交差部の一部はごく薄く砂状化したり、φ5mm前後に細片化する。粘土は挟在しない。	58.37	58.85	岩片は硬さBで堅硬であるが、20~30°割れ目と80~90°割れ目が交差し、交差部の一部はごく薄く砂状化したり、φ5mm前後に細片化する。粘土は挟在しない。	58.37	58.85	58.37~58.85m: 傾斜20~30°の割れ目と80~90°の割れ目が交差し、交差部の一部はごく薄く砂状化したり、径5mm前後に細片化する。粘土は挟在しない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
205	58.85	58.96	50°割れ目主体で、硬さCと上下よりやや軟質化する。	58.85	58.96	50°割れ目主体で、硬さCと上下よりやや軟質化する。	58.85	58.96	58.85~58.96m: 傾斜50°の割れ目が主体である。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
206	58.55	58.55	50°割れ目は幅10mmがφ5mmのやや扁平化した細岩片と岩片間を埋める明緑灰色(7.5GY 8/1)の軟弱粘土からなる粘土混り岩片状を呈する。	58.55	58.55	50°割れ目は幅10mmがφ5mmのやや扁平化した細岩片と岩片間を埋める明緑灰色(7.5GY 8/1)の軟弱粘土からなる粘土混り岩片状を呈する。不連続である。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	58.55	58.55	58.55m: 傾斜50°の割れ目は直線的でシャープに連続し、面には条線が見られる。割れ目沿いに径5mmのやや扁平化した細岩片と岩片間を埋める明緑灰色の軟弱粘土からなる粘土混り岩片状部が幅10mmで見られるが不連続で、周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	下記と同じ深度の記載をまとめて書きした
207	58.85	58.85	50°割れ目は直線的でシャープに連続し、せん断性割れ目の可能性もある。	58.85	58.85	50°割れ目は直線的でシャープに連続し、条線が見られるため、せん断性割れ目とした。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-	-	上記でまとめて書きしたため記載しない
208	58.96	59.47	硬さBで堅硬で50~70°割れ目が主体である。割れ目の挟在物はない。	-	-	-	58.96	59.47	58.96~59.47m: 傾斜50~70°の割れ目が主体である。割れ目の挟在物はない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
209	59.16	59.16	45°割れ目の下盤側幅約30mmは細粒花崗岩様を呈するが、Gpとの境界は漸移的。	59.16	59.16	45°割れ目の下盤側幅約30mmは細粒花崗岩様を呈するが、Gpとの境界は漸移的。	59.16	59.16	59.16m: 傾斜45°の割れ目の下盤側幅約30mmは細粒花崗岩様を呈するが、花崗岩との境界は漸移的である。	
210	59.07	59.58	30~50°の割れ目、低密着割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土層を多く含む。全体が著しく軟化する。	59.47	59.58	30~50°の割れ目、低密着割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土層を多く含む。全体が著しく軟化する。網目状に石英脈を挟む。	59.47	60.06	59.47~60.06m: 傾斜30~50°の割れ目、低密着割れ目に幅1mm前後の軟弱な白色粘土層を多く挟む。網目状に石英脈を挟む。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない 記事内容がほぼ同じであるため、59.58~60.06mの記事を含めて記載した
211	59.47	59.71	(風化欄)のランク	59.47	59.71	(風化欄)のランク	59.47	59.71	(風化欄)のランク	
212	59.58	60.06	幅1mm前後の軟弱な白色粘土層が分布する。59.71mは硬さD、59.71m以下は硬さCの岩片からなり割れ目そのものは少ないが、細かい低密着割れ目が多い。	59.58	60.06	幅1mm前後の軟弱な白色粘土層が分布する。59.71m以下は硬さD、59.71m以下は硬さCの岩片からなり割れ目そのものは少ないが、細かい低密着割れ目が多い。	59.47	59.71	59.47~59.71m: 傾斜30~50°の割れ目、低密着割れ目に幅1mm前後の軟弱な白色粘土層を多く挟む。網目状に石英脈を挟む。	上記でまとめて書きしたため記載しない

H24-D1-4 60.06~61.47m

コア観察カード			適正化するべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化するべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)	
記事	記事	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事を削除・変更・追記した理由		
213	60.06	60.38	破砕帯	60.06	60.38	破砕部		・用語の統一(破砕帯→破砕部)		
214	60.06	60.06	Hc-1(主せん断面) 45°、幅3mmの軟質～一部半固結状の暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土。石英や岩片は含まない。直線的でシャープに連続する。	60.06	60.06	Hc-1(最新活動面)(上端が最もシャープ) 45°、幅3mmの軟質～一部や硬質な暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土。石英や岩片は含まない。直線的でシャープに連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。		・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の直線性について追記した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(軟質⇒軟質)	●60.06～60.38m:破砕部 60.06m:粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続する幅3mmの軟質～一部や硬質な暗緑灰色粘土からなる。石英粒や岩片は含まない。 60.06～60.16m:粘土質礫状部(Hb) 上端45°で直線的にシャープに連続。下端は不明瞭。径2～3mmの石英粒。径5～10mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅約30～50mm。 60.16～60.38m:粘土混じり岩片状部(Hd) 上端不明瞭。下端60°で直線的にシャープに連続。径10mm前後の粘土化～硬さ[D]の花崗斑岩の岩片と岩片間に網状に分布する幅1～3mmの灰白色粘土脈からなる。明褐灰～緑灰色を呈する。	
215	60.06	60.16	Hb 上端45°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープに連続するが、下端は不明瞭である。φ2～3mm石英粒、φ5～10mmの粘土化したGoを多く含む硬質粘土でや軟質で緑色をおびた灰白色(5GY 6/1)を呈する。厚さ約30mm～50mm。	60.06	60.16	Hb 上端45°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープに連続するが、下端は不明瞭である。φ2～3mm石英粒、φ5～10mmの粘土化したGo岩片を多く含む粘土質礫状部でや軟質で緑色を帯びた灰白色(5GY 6/1)を呈する。厚さ約30mm～50mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	60.06	60.38	・硬質であるため破砕部内物質の名称を変更した ・粘土化が進み軟質であるため硬さを変更した ・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(軟質⇒軟質、帯びる) ・表記の修正(「岩片」の記載漏れ)	
216	60.16	60.38	Hd 上端不明瞭。下端60°で下端は直線的でシャープに連続。φ10mm前後の粘土化～硬さ[D]のGo岩片と岩片間に網状に分布する幅1～3mmの灰白色粘土脈からなり、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐灰(7.5YR 7/2)～緑灰(7.5GY 6/1)で、厚さは270mm(コア長)。	60.16	60.38	Hd 上端不明瞭。下端60°で下端は直線的でシャープに連続。φ10mm前後の粘土化～硬さ[D]のGo岩片と岩片間に網状に分布する幅1～3mmの灰白色粘土脈からなり、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐灰(7.5YR 7/2)～緑灰(7.5GY 6/1)で、厚さは270mm(コア長)。やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			・表記の修正(「色」の記載漏れ) ・厚さとしてコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した ・硬さ、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(混じり)	
217	60.38	60.74	硬さD岩片主体で、割れ目は消滅しかかっているが、からうして50～60°の割れ目の一部が残留している。割れ目や岩片間に幅1mm前後の軟質白色粘土脈が分布し、50°～60°～80°で石英、方解石の白色鉱物脈が幅2～5mmで分布する。	60.38	60.74	硬さD岩片主体で、割れ目は消滅しかかっているが、からうして50～60°の割れ目の一部が残留している。割れ目や岩片間に幅1mm前後の軟質白色粘土脈が分布し、50°～60°～80°で石英、方解石の白色鉱物脈が幅2～5mmで分布する。	60.38	60.74	・表現の統一(軟質⇒軟質)	60.38～60.74m:割れ目は消滅しかかっているが、傾斜50～60°の割れ目の一部が残留する。割れ目や岩片間に幅1mm前後の軟質白色粘土脈が分布し、傾斜50～80°の石英、方解石の白色鉱物脈が幅2～5mmで分布する。
218	60.74	60.96	φ5～20mmの硬さDのGo岩片と粘土化した基質からなる角礫構造部である。	60.74	60.96	φ5～20mmの硬さDのGo岩片と粘土化した基質からなる角礫状を呈する。原岩組織は認められる。	60.74	60.96	・原岩組織の有無について追記した ・表現の適正化(角礫構造という用語が一般的ではないため、角礫状に変更した)	60.74～60.96m:径5～20mmの硬さ[D]の花崗斑岩の岩片と粘土化した基質からなる角礫状を呈するが、原岩組織は認められる。
219	60.96	61.39	岩片自身は硬さが主体であるが、低密着割れ目そいいにφ10～20mm主体に細片化している。岩片に粘土が付着していることが多い。	60.96	61.39	岩片自身は硬さが主体であるが、低密着割れ目そいいにφ10～20mm主体に細片化している。岩片に粘土が付着していることが多い。	60.96	61.39	・表現の適正化(沿い) ・コアの硬さのランクと整合しないため変更した	60.96～61.39m:低密着割れ目沿いに主に径10～20mmに細片化する。岩片に粘土が付着していることが多い。
220	60.96	61.21	(変質帯)2ランク	60.96	61.21	(変質帯)2ランク	60.96	61.21	・変質の程度がやや弱いため変質のランクを2ランクに変更した	(変質帯)2ランク
221	61.25	61.28	15°方向に緑灰色化した岩片が分布。割れ目や表面にφ0.5mm前後の金属鉱物(黄鉄鉱)が晶出。	61.25	61.28	15°方向に緑灰色化した岩片が分布。割れ目や表面にφ0.5mm前後の金属鉱物(黄鉄鉱)が晶出。幅10mmの灰色の石英脈を伴う。	61.25	61.28	・石英脈を伴うため追記した	61.25～61.28m:傾斜15°で緑灰色化した岩片が分布する。割れ目や岩片の表面に径0.5mm前後の黄鉄鉱が晶出する。幅10mmの灰色の石英脈を伴う。
222	61.39	61.47	φ5～20mmの硬さD岩片と粘土化した基質からなる。上端20°、下端5°の直線的でシャープな割れ目に囲まれる。	61.39	61.47	変質部 φ5～20mmの硬さD岩片と粘土化した基質からなる。上端20°、下端5°の直線的でシャープな割れ目に囲まれる。	61.39	61.47	・変質部であるため変質部と追記した	61.39～61.47m:変質部 上端20°、下端5°の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、径5～20mmの硬さ[D]の岩片と粘土化した基質からなる。

H24-D1-4 61.47~63.49m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
223	61.47	61.52	破砕帯	61.47	61.52	破砕部			
224	61.47	61.52	Hb 上端5°、下端45°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒。φ2~10mmの大半が粘土化したCa岩片を多く含むや軟弱な緑色を帯びた灰白色(7.5GY 8/1)の硬質粘土で、厚さ50mm。	61.47	61.52	Hb 上端5°、下端45°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒。φ2~10mmの大半が粘土化したCa岩片を多く含むや軟弱な緑色を帯びた灰白色(7.5GY 8/1)の粘土質硬状部で、厚さ50mm。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	61.47	61.52	●61.47~61.52m:破砕部 61.47~61.52m:粘土質硬状部(Hb) 上端5°、下端45°でともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒。径2~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅50mm。 61.52m:粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続する幅1mmの軟弱な暗緑灰色粘土からなる。
225	61.52	61.52	Hc-1(主せん断面) 45°、幅1mmの軟弱な暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土で直線的でシャープに連続する。	61.52	61.52	Hc-1(最新活動面) 45°、幅1mmの軟弱な暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土で直線的でシャープに連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。			
226	61.52	62.42	20~60°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目からなる。このうち、20~30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟弱な暗緑灰~灰白色の粘土ないし粘土脈を挟むことが多い。	61.52	62.42	20~60°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布する。このうち、20~30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟弱な暗緑灰~灰白色の粘土ないし粘土脈を挟むことが多い。	61.52	62.42	61.52~62.42m:傾斜20~60°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布し、このうち、傾斜20~30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟弱な暗緑灰~灰白色の粘土を挟むことが多い。
227	62.38	62.38	30°はせん断性割れ目で、交差する60°割れ目を切っている(変位量7mm右ズレ)。	62.38	62.38	30°のせん断性割れ目は、交差する60°割れ目を止めている。切っけている「変位量7mm右ズレ」割れ目には挟入物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	62.38	62.38	62.38m:傾斜30°の割れ目は、交差する60°の割れ目を止めている。割れ目には挟入物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
228	62.42	62.49	上端25°、下端20°の割れ目に囲まれφ5mm前後の硬さDの岩片と粘土化著しい基質からなる。	-	-	-	62.42	62.49	62.42~62.49m:上端25°、下端20°の割れ目に囲まれ、径5mm前後の硬さ「D」の岩片と粘土化が著しい基質からなる。
229	62.49	62.74	変質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色(7.5GY 4/1)、灰赤色(2.5YR 6/2)を挟む。	62.49	62.74	変質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色(7.5GY 4/1)、灰赤色(2.5YR 6/2)の粘土脈を挟む。	62.49	62.74	62.49~62.74m:変質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は傾斜10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色、灰赤色の粘土脈を挟む。
230	62.67	62.67	40°は幅0.5mm灰赤色の軟弱粘土を挟み、その下盤傾斜3~12mmにφ5mm前後の白色硬と軟弱な白色粘土脈を伴う。	62.67	62.67	40°割れ目は幅0.5mm灰赤色の軟弱粘土を挟み、その下盤傾斜3~12mmにφ5mm前後の白色硬と軟弱な白色粘土脈を伴う。	62.67	62.67	62.67m:傾斜40°で幅0.5mmの軟弱な灰赤色粘土を挟み、その下盤傾斜3~12mmにφ5mm前後の白色硬と軟弱な白色粘土脈を伴う。
231	62.74	63.29	割れ目は消滅しかかるが、70°前後と40°前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土脈は挟まれないが、岩片間に淡緑灰~白色粘土フィルムが付着することが多い。	62.74	63.29	割れ目は消滅しかかるが、70°前後と40°前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土脈は挟まれないが、岩片間に淡緑灰~白色粘土フィルムが付着することが多い。	62.74	63.29	62.74~63.29m:割れ目は消滅しかかるが、傾斜70°前後と40°前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土脈は挟まれないが、岩片間にフィルム状の淡緑灰~白色粘土が付着することが多い。
232	-	-	-	63.03	63.04	傾斜40°、幅8mm、灰色を呈する石英脈を挟む。	63.03	63.04	63.03~63.04m:傾斜40°で幅8mmの灰色の石英脈を挟む。
233	-	-	-	63.21	63.21	傾斜45°、幅1~3mmの灰色粘土脈を挟む。	63.21	63.21	63.21m:傾斜45°で幅1~3mmの灰色粘土脈を挟む。
234	63.29	63.67	上位よりも著しく軟化する。63.38m~30°、63.49m~55°の2ヶ所に割れ目が分布する以外は消滅し、φ10mm前後の岩片間に幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈が網状に分布する。	63.29	63.67	上位よりも著しく軟化する。63.38m~30°、63.49m~55°の2箇所割れ目が分布する以外は消滅し、φ10mm前後の岩片間に幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈が網状に分布する。	63.29	63.67	63.29~63.67m:上位よりも著しく軟化する。径10mm前後の岩片間に幅1~2mmの軟弱な白色粘土が網目状に分布する。
235	63.49	63.49	55°はせん断性割れ目で多数の幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈が切られている(変位量不明)	63.49	63.49	55°のせん断性割れ目で多数の幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈が止まっている。切っけている「変位量不明」。割れ目には幅0~1mmの暗緑灰色粘土を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	63.49	63.49	63.49m:傾斜55°の割れ目で多数の幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈が止まっている。割れ目には幅0~1mmの暗緑灰色粘土を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。

H24-D1-4 63.67~66.50m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
	記事	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		記事内容	記事内容		
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
236	63.67	63.90	破砕帯	63.67	63.90	破砕部			
237	63.67	63.83	H 上端45°、下端60°で、両者とも一部不明瞭で連続する。φ5~20mmの大半が粘土化したGp岩片と岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土層が網状に分布する。また、63.72mに45°、幅2~3mmの軟弱な灰赤色(2.5YR 6/2)が直線的でシャープに連続している。全体的には粘土混じり岩片状で、淡い緑色を帯びた灰白色(7.5Y 8/1)で厚さ150mm(コア長)	63.67	63.83	H 上端45°、下端60°で、両者とも一部不明瞭で連続する。φ5~20mmの大半が粘土化したGp岩片と岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土層が網状に分布する。また、63.72mに45°、幅2~3mmの軟弱な灰赤色(2.5YR 6/2)粘土を挟む。粘土の境界は漸移的で直線性に乏しい。全体的には粘土混じり岩片状で、淡い緑色を帯びた灰白色(7.5Y 8/1)で厚さ150mm(コア長) 軟質:原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	63.67	63.83	●63.67~63.90m:破砕部 63.67~63.83m:粘土混じり岩片状部(H) 上端45°、下端60°でとも一部不明瞭で連続。径5~20mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片と岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土層が網状に分布する。また、63.72mに傾斜45°で幅2~3mmの軟質な灰赤色粘土を挟む。粘土の境界は漸移的で直線性に乏しい。全体は淡い緑色を帯びた灰白色を呈する。 63.83~63.88m:粘土質硬状部(Hb) 上端60°で不明瞭。下端70°で直線的にシャープに連続。径5~10mmの一部粘土化。一部硬さEの岩片を多く含む硬質粘土を脈状~扁平状に含む。全体はやや軟弱な灰白(7.5Y 8/1)~赤灰(2.5YR 6/1)。厚さ20~30mm。 63.88~63.90m:粘土状部(He-1) 傾斜70°で直線的にシャープに連続する幅5~10mmの硬質な赤灰色粘土からなる。径1mm前後の石英粒をわずかに含む。
238	63.83	63.88	Hb 上端60°、下端70°で上端は不明瞭。下端は直線的でシャープに連続。φ5~10mmの一部粘土化。一部硬さEの岩片を多く含む硬質粘土を脈状~扁平状に含む。全体はやや軟弱な灰白(7.5Y 8/1)~赤灰(2.5YR 6/1)。厚さ20~30mm。	63.83	63.88	Hb 上端60°、下端70°で上端は不明瞭。下端は直線的でシャープに連続。φ5~10mmの一部粘土化。一部硬さEの岩片を多く含む硬質粘土を脈状~扁平状に含む。全体はやや軟弱な灰白(7.5Y 8/1)~赤灰(2.5YR 6/1)。厚さ20~30mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	63.83	63.88	●硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ●表現の適正化(軟弱⇒軟質、扁平状⇒レンズ状) ●粘土化が進んでいるため硬軟を変更した ●傾斜の修正(「E」の記載漏れ) ●細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
239	63.88	63.90	He-1(主せん断面・63.88m) 70° 幅5~10mmで直線的でシャープに連続するやが半圓柱状の赤灰色(2.5YR 6/1)の粘土。若干のφ1mm前後の石英粒を含む。	63.88	63.90	He-1(最新活動面・63.90m)(下端が最もシャープ) 70° 幅5~10mmで直線的でシャープに連続する硬質の赤灰色(2.5YR 6/1)の粘土。若干のφ1mm前後の石英粒を含む。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	63.88	63.90	●最新活動面という用語に統一 ●最新活動面の直線性について追記した ●下端が最も直線的であるため最新活動面を下端境界に変更した ●傾斜よりコアの表面が明らかで突出しているため硬軟に変更した ●原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
240	63.90	64.05	硬さDのφ5~20mmGp岩片と、粘土化で著しく軟化した基質からなる。64.05mで70°の直線的でシャープな割れ目と接する。	63.90	64.05	硬さDのφ5~20mmGp岩片と、粘土化で著しく軟化した基質からなる。64.05mの70°の直線的でシャープな割れ目と下位と接される。	63.90	64.05	●表現の適正化(軟質化) ●文章の適正化(割れ目と接する⇒割れ目で接される)
241	64.05	64.57	(割れ目状態欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Cランク	64.05	64.57	(割れ目状態欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Bランク	64.05	64.57	●コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクを変更した
242	64.05	65.93	(岩級区分欄)CL	64.05	65.93	(岩級区分欄)CM	64.05	65.93	●割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクの変更に伴い、岩級を変更した
243	64.05	64.57	一部に硬さBを混入する硬さCの岩片主体。互いに交差する70°前後の割れ目。低密度割れ目が主体で、交差部の一部でφ10~20mmの岩片に細片化している。割れ目には挟在物は分布しない。	64.05	64.57	一部に硬さCを混入する硬さBの岩片主体。互いに交差する70°前後の割れ目。低密度割れ目が主体で、交差部の一部でφ10~20mmの岩片に細片化している。割れ目には挟在物は分布しない。	64.05	64.57	●コアの硬さのランクの変更に伴い、記事の硬さのランクも変更した
244	64.57	65.06	硬さBと硬度で10~30°割れ目主体。同角の低密度割れ目も分布する。	64.57	65.06	硬さBと硬度で10~30°割れ目主体。同角の低密度割れ目も分布する。	64.57	65.06	●表現の適正化(同角⇒同角度)
245	64.83	64.83	60°割れ目に連続した幅1mmの緑灰色(7.5GY 6/1)粘土層をはさむ。	64.83	64.83	60°割れ目に硬質な幅1mmの緑灰色(7.5GY 6/1)粘土層を挟む。	64.83	64.83	●表現の適正化(挟む) ●表現の統一(固結⇒硬質)
246	65.00	70.00	(地質名欄)記載なし	65.00	70.00	(地質名欄)Gp	65.00	70.00	●地質名欄の記載が漏れていたため追記した
247	65.06	66.65	30~60°とこれらに斜交~直交する40~80°割れ目が主体で、割れ目は直線的にシャープではなく波打ちながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などはさまないが、割れ目直下にφ5mm前後の細片化することがある。	65.06	66.65	30~60°とこれらに斜交~直交する40~80°割れ目が主体で、割れ目は直線的にシャープではなく波打ちながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などはさまないが、割れ目直下にφ5mm前後に細片化することがある。	65.06	66.65	●表現の適正化(挟む、治い) ●傾斜の修正(前後の⇒前後に)
248	65.06	66.65	(割れ目状態欄)Cランク	65.06	66.65	(割れ目状態欄)Bランク	65.06	66.65	●挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをBランクに変更した
249	65.06	65.93	(コアの形状欄)Vランク	65.06	65.93	(コアの形状欄)IVランク	65.06	65.93	●上位と同程度の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した
250	65.06	66.50	(コアの硬さ欄)Cランク	65.06	66.50	(コアの硬さ欄)Bランク	65.06	66.50	●コアは硬質なためコアの硬さのランクをBランクに変更した

余白

H27-B-3

H27-B-3 0.00~10.05m

コア観察カード		記事		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	記事	記事	記事		上端深度	下端深度	適正化すべき記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか?	<input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容	<input checked="" type="checkbox"/>						
1	-			0.00	10.05	盛土	・表見の統一(盛土) ・人工堆積物の区間を適切にした	0.00	10.05	0.00~10.05m:盛土	
2	0.00	1.70	埋戻土 ボーリング直前に先立ち、地下埋設物確認のため 手廻りの試験を行い、その埋戻土。	0.00	1.70	埋戻土 ボーリング直前に先立ち、地下埋設物確認のため 手廻りの試験を行った際の試験、い、その埋戻土。	・表見の統一(0.00) ・人工堆積物の地質名の記載を削除した	-	-		・人工堆積物を盛土で一括したため試験試料区間を区分しない
3	0.00	0.35	砕石	0.00	0.35	砕 径2~3cm程度の黒色砂岩の角礫からなる。	・表見の統一(0.00) ・砕石を地質名に変更した ・粒径、礫の形状、岩種名を適切にした	0.00	0.35	0.00~0.35m: 砕 径2~3cm程度の黒色砂岩の角礫からなる。	
4	0.35	1.70	雑泥り砂~雑質砂	0.35	1.70	雑泥り砂~雑質砂 径2~30mm程度の花崗岩類、黒色砂岩の角~亜 角礫を30%以下で含む粗粒砂からなる。ルーズ。	・表見の適正化(混じり) ・構成物を適切にした	0.35	1.70	0.35~1.70m: 雑泥り砂~雑質砂 径2~20mm程度の花崗岩類、黒色砂岩の角~ 粗粒砂からなる。ルーズ。	
5	1.70	10.05	盛土 構造物基礎の盛土部 よく締った雑泥り粗砂~粗砂~砂礫からなる。	1.70	10.05	盛土 構造物基礎の盛土部 よく締った雑泥り粗砂~粗砂~砂礫からなる。	・盛土の記載は、0.00~10.05mの記事にまとめて示したため削除し た。 ・構造物基礎の盛土部は、コア観察だけでは判断できないため削 除した	1.70	10.05	1.70~10.05m:よく締った雑泥り粗砂~粗砂~砂礫からなる。	
6	1.70	5.27	砂					1.70	5.27	1.70~5.27m: 砂	
7	2.40	2.80	2.4~2.8m間の水平性割れ目は掘削後の乾燥による 収縮クラック。	2.40	2.80	2.40~2.80m間の水平性割れ目は掘削後の乾燥による 収縮クラック。	・表見の統一(深度の表示)	-	-		・原位置のコアの状況ではないため削除した
8	3.50	-	3.50m以深では粗粒砂が主体となる。					3.50	-	3.50m以深は粗粒砂が主体となる。	
9	3.61	3.67	マンガンで表面が黒色化した石英粒が濃集している。					3.61	3.67	3.61~3.67m:マンガンで表面が黒色化した石英粒が濃集している。	
10	5.27	5.60	砂礫	5.27	5.60	砂礫 径2~80mm程度の花崗岩類、砂岩の亜角礫を含む 粗粒砂からなる。	・構成物を適切にした	5.27	10.05	5.27~10.05m: 砂礫 径2~170mm程度の花崗岩類、砂岩の角~亜角礫を含む粗粒砂からなる。	・盛土のうち、砂礫の区間をまとめて書きした
11	5.60	7.07	砂 中粒砂主体で塊状。 ラミナなどの堆積構造は分布しない。 φ2~3mm石英粒を少量(5%未満)含む。	5.60	7.07	砂 中粒砂主体で塊状。 ラミナなどの堆積構造は分布しない。 φ2~3mm石英粒を少量(5%未満)含む。	・表見の適正化(mmφ表示)	5.60	7.07	5.60~7.07m: 砂を挟む。中粒砂主体で塊状。ラミナなどの堆積構造は分布 しない。径2~3mmの石英粒を少量(5%未満)含む。	
12	6.50	-	6.50m以深では締る。	6.50	-	6.50m以深では締る。	・表見の統一(深度の表示)	6.50	-	6.50m以深は締まりが良い。	
13	7.07	8.01	砂礫	7.07	8.01	砂礫 径2~170mm程度の花崗岩類の角~亜角礫を含む 粗粒砂からなる。	・構成物を適切にした	-	-		・上記で砂礫の区間の記載をまとめて書きしたため削除した
14	8.01	8.37	砂					8.01	8.37	8.01~8.37m: 砂を挟む。	
15	8.37	10.05	砂礫	8.37	10.05	砂礫 径2~80mm程度の花崗岩類、砂岩の亜角礫を含む 粗粒砂からなる。	・構成物を適切にした	-	-		・上記で砂礫の区間の記載をまとめて書きしたため削除した
16	9.21	9.66	腐食した鉄棒を含むモルタル(一部にGp継骨材少 量含む)					9.21	9.66	9.21~9.66m: 腐食した鉄棒を含むモルタル(一部に花崗岩継骨材少量 含む)。	
17	9.80	10.03	9.80mと10.03m付近モルタル含む	9.80	9.80	9.80m付近モルタル含む	・10.03mはモルタルではなくスライムのシルトであるため削除した	9.80	9.80	9.80m付近にモルタルを含む。	
18	-	-	(着岩)					-	-		・下記に花崗岩の区間を示しているため着岩の記載は削除した
19	-	-	φ1~3mm石英、長石を斑晶とする花崗斑岩 (Gp)。長石は白濁化することが多い。	10.05	180.00	花崗斑岩 φ1~3mm石英、長石を斑晶とする花崗斑岩(Gp)。 長石は白濁化することが多い。	・地質名及び区分深度を適切にした ・表見の適正化(mm)	10.05	180.00	10.05~180.00m: 花崗斑岩 径1~3mmの石英、長石を斑晶とする花崗斑岩。長石は白濁化することが 多い。	

H27-B-3 10.05~15.80m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
20	10.05	12.96	CL 硬さ「C」主体で上端側の10.05~11.20mと中央部の11.82~12.00mは風化が進んだ硬さ「D」である。硬さ「C」区画の一部で割れ目に挟む物を含まない部分があるが多くは風化により砂や変質粘土を脈状に挟んでいる。長石は多くが白濁化している。				10.05~12.96m:CL 硬さ「C」主体で上端側の10.05~11.20mと中央部の11.82~12.00mは風化が進んで硬さ「D」である。硬さ「C」の区画の一部で割れ目に挟む物を含まない部分がある、多くは風化により砂や変質粘土を脈状に挟む。長石の多くは白濁化している。
21	10.70	10.80	硬さ「C」の硬質薄片が残留する。				10.70~10.80m:硬さ「C」の硬質薄片が残留する。
22	11.20	11.82	硬さ「C」主体で挟む物も少ない。一部で密着度の低い割れ目を含んでいる。				11.20~11.82m:硬さ「C」主体で挟む物も少ない。一部で密着度の低い割れ目を含む。
23	11.40	11.55	割れ目が交差し岩片化するが劣化は伴わない。	11.40	11.55	割れ目が交差し岩片化するが劣化は伴わない。	11.40~11.55m:割れ目が交差し岩片化するが、劣化は伴わない。
24	11.82	12.00	上下位よりも軟化する。下端部の11.97~12.00mは粘土化が進んでいる。	11.82	12.00	上下位よりも軟化する。下端部の11.97~12.00mは粘土化が進んでいる。	11.82~12.00m:上下位よりも軟化する。11.97~12.00mは粘土化が進む。
25	12.00	12.96	硬さ「C」主体であるが、割れ目ぞい厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。また、各割れ目は軽度マンガン鉱染を受け、面の一部は黒褐色化する。	12.00	12.96	硬さ「C」主体であるが、割れ目ぞい厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。また、各割れ目は軽度マンガン鉱染を受け、面の一部は黒褐色化する。	12.00~12.96m:硬さ「C」主体であるが、割れ目ぞいに幅1mm程度で薄く砂状化することが多い。また、各割れ目は薄くマンガン鉱染を受け、面の一部は黒褐色化する。
26	12.96	14.62	D、CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に細かな砂状化が進み、所々、灰白色の粘土を径5mm前後の斑状点・幅1~3mmの脈状に含んでいる。	12.96	14.62	D、CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に細かな砂状化が進み、所々、灰白色の粘土を径5mm前後の斑状点・幅1~3mmの脈状に含んでいる。	12.96~14.62m:D、CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」で岩組織や割れ目は残留しているが、全体に硬質な砂状化が進み、所々、灰白色の粘土を径5mm前後の斑状点・幅1~3mmの脈状に含む。
27	13.64	14.30	硬さ「C」岩片主体で20~40°の密着度の低い割れ目が同方向に1~2cm間隔で分布。				13.64~14.30m:硬さ「C」の岩片主体で20~40°の密着度の低い割れ目が同方向に1~2cm間隔で分布する。
28	13.64	14.30	(コアの硬さ欄)Dランク	13.64	14.30	(コアの硬さ欄)Dランク	(コアの硬さ欄)Dランク
29	14.22	14.22	43°幅1mm軟質黄褐色粘土を挟む割れ目(sj)交差する80°幅1mm石英脈を切っている(変位量7m/m、右ズレ)	14.22	14.22	43°幅1mm軟質黄褐色粘土を挟む割れ目(sj)交差する80°幅1mm石英脈を止めている。切っ先は変位量7mm、右ズレ。 割れ目周辺の岩盤に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。	14.22m:43°で幅1mmの軟質黄褐色粘土を挟む割れ目は、交差する80°で幅1mmの石英脈を止めている。割れ目周辺の岩盤に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。
30	14.30	14.62	上端17°幅1~5mm軟質赤灰色粘土、下端50°割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。 岩組織や割れ目はわずかに残留している。所々に幅1~2mmの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。	14.30	14.62	上端17°幅1~5mm軟質赤灰色粘土、下端50°割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。 原岩組織や割れ目はわずかに残留している。所々に幅1~2mmの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。	14.30~14.62m:上端17°で幅1~5mmの軟質赤灰色粘土を挟む割れ目、下端50°の割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留する。原岩組織や割れ目はわずかに残留する。所々に幅1~2mmの軟質灰白色粘土を脈状に含む。
31	14.30	14.62	(岩級区分欄)D	14.30	14.62	(岩級区分欄)CL	14.30~14.62m:(岩級区分欄)CLに含める
32	14.62	20.04	CL 20~40°割れ目主体で、割れ目ぞいに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。	14.62	20.04	CL 20~40°割れ目主体で、割れ目ぞいに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。	14.62~20.04m:CL 20~40°の割れ目が主体で、割れ目ぞいに風化で砂状化が拡大する部分も含む。
33	-	16.49	上端側の16.49m未満は硬さ「D」主体、16.49m以降は硬さ「C」主体である。				16.49m未満は硬さ「D」主体、16.49m以降は硬さ「C」主体である。
34	15.33	15.43	風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。	15.33	15.43	風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。	15.33~15.43m:風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。
35	15.73	15.80	80°割れ目ぞい薄くマンガン鉱染を受ける。	15.73	15.80	80°割れ目ぞい薄くマンガン鉱染を受ける。	15.73~15.80m:80°の割れ目ぞいに薄くマンガン鉱染を受ける。